

第 2 次益田市自転車
活用推進計画
(案)

(市長挨拶)

目 次

第1章 計画の概要	1
1-1 計画策定の趣旨	2
1-2 計画の構成	3
1-3 計画の位置づけ	4
1-4 計画の区域	8
1-5 計画の期間	8
1-6 計画の将来像	9
1-7 自転車によるまちづくりでつくる好影響	10
第2章 自転車を巡る本市の現状	11
2-1 現況把握のための各種調査の実施について	12
2-2 都市環境	13
(1)地勢・人口	13
(2)市民の主な交通・移動手段	15
(3)自転車通行空間に関する取組	16
(4)自転車利用環境に関する取組	17
2-3 健康増進	19
(1)市民の自転車を活用した健康づくり	19
(2)自転車利用の機会創出に関する取組	21
2-4 安全・安心	23
(1)自転車関連事故	23
(2)市民の自転車の安全利用に対する意識	25
(3)交通ルールの周知・啓発に関する取組	29
2-5 観光地域づくり	31
(1)本市の観光動向	31
(2)サイクルツーリズムに関する取組	33
第3章 自転車によるまちづくり施策	36
3-1 施策の基本方針	37
3-2 施策体系	38
3-3 益田市版SDGsと自転車施策との関わり	39
3-4 施策内容	41
(1)都市環境に関する施策	42
(2)健康増進に関する施策	46
(3)安全・安心に関する施策	52
(4)観光地域づくりに関する施策	58

第4章 計画の進行管理	64
4-1 計画の進行管理	65
4-2 重点施策の進捗管理・定量評価	66
4-3 最終目標.....	67
第5章 巻末資料.....	68
5-1 用語集	69
5-2 策定経過.....	71
5-3 益田市自転車活用推進委員会名簿	72

第1章

計画の概要

- 1-1 計画策定の趣旨
- 1-2 計画の構成
- 1-3 計画の位置づけ
- 1-4 計画の区域
- 1-5 計画の期間
- 1-6 計画の将来像
- 1-7 自転車によるまちづくりでつくる好影響



1-1 計画策定の趣旨

自転車は、子どもから高齢者まで幅広い世代にとって、手軽で便利な交通手段として最も身近な乗り物であり、CO₂を排出しない環境にやさしい乗り物でもあります。

東日本大震災以降、ガソリン等の燃料を用いず、交通渋滞も発生しないといった災害時における自転車の活躍等により自転車の機能が再認識され、通勤・通学、買い物利用等の日常生活における移動手段、また、サイクリングやポタリング※1等を通じた健康づくりや余暇の充実により人々の行動を広げ、地域のつながりを高めるツールとして活用されています。

このような中、国においては平成29年5月に、自転車活用による環境負荷の低減、災害時における交通機能の維持、国民の健康増進等を図るなど新たな課題に対応するため、交通の安全を図りつつ、自転車の利用を増進し、交通における自動車への依存を低減することによって、公共の利益の増進に資することなどを基本理念とする「自転車活用推進法」を施行し、平成30年6月に自転車の活用を総合的かつ計画的に推進を図るための「自転車活用推進計画」が策定されました。また、令和3年5月28日には、昨今の社会情勢の変化等を踏まえ、持続可能な社会の実現に向けた自転車の活用の推進を一層図るため、第2次自転車活用推進計画が策定されたところです。

本市では、令和2年6月に「益田市自転車活用推進計画(以下、「第1次計画」という。)」を策定し、「都市環境」、「健康増進」、「観光地域づくり」、「安全・安心」の4つの分野から、身近でアクセシビリティ※2の高い交通手段である自転車の利用を推進し、市民の健康増進や環境負荷の低減による良好な都市環境の形成を図るとともに、サイクルツーリズム※3の推進による交流人口の拡大や地域経済の活性化などといった、人口減少、少子高齢化が進展する本市の抱える課題解決に資する地方創生の取組を推進してきました。

一方、道路交通法の改正による自転車安全利用五則の改定、自転車利用者ヘルメットの努力義務化など、自転車を取り巻く社会情勢は大きく変化しています。また、本市においては、令和4年8月に「益田市高津川かわまちづくり計画」※4の登録、令和5年5月に「益田市自転車ネットワーク計画」※5の策定など、自転車活用に対する機運はますます高まっています。

こうした背景を踏まえ、これまでの市民の自転車利用のさらなる促進と地域振興を目指す、本市ならではの自転車によるまちづくりをより一層推進し、本計画の将来像である「暮らしやすいまち訪れたいまち 100ZERO のまち 益田」の実現を目指すため、「第2次益田市自転車活用推進計画」を策定します。

※1 ポタリング：散歩のように、特に目的地を定めず気分や体調に合わせて周辺を自転車で巡ること。

※2 アクセシビリティ：利用のしやすさ、都市生活における利便性。

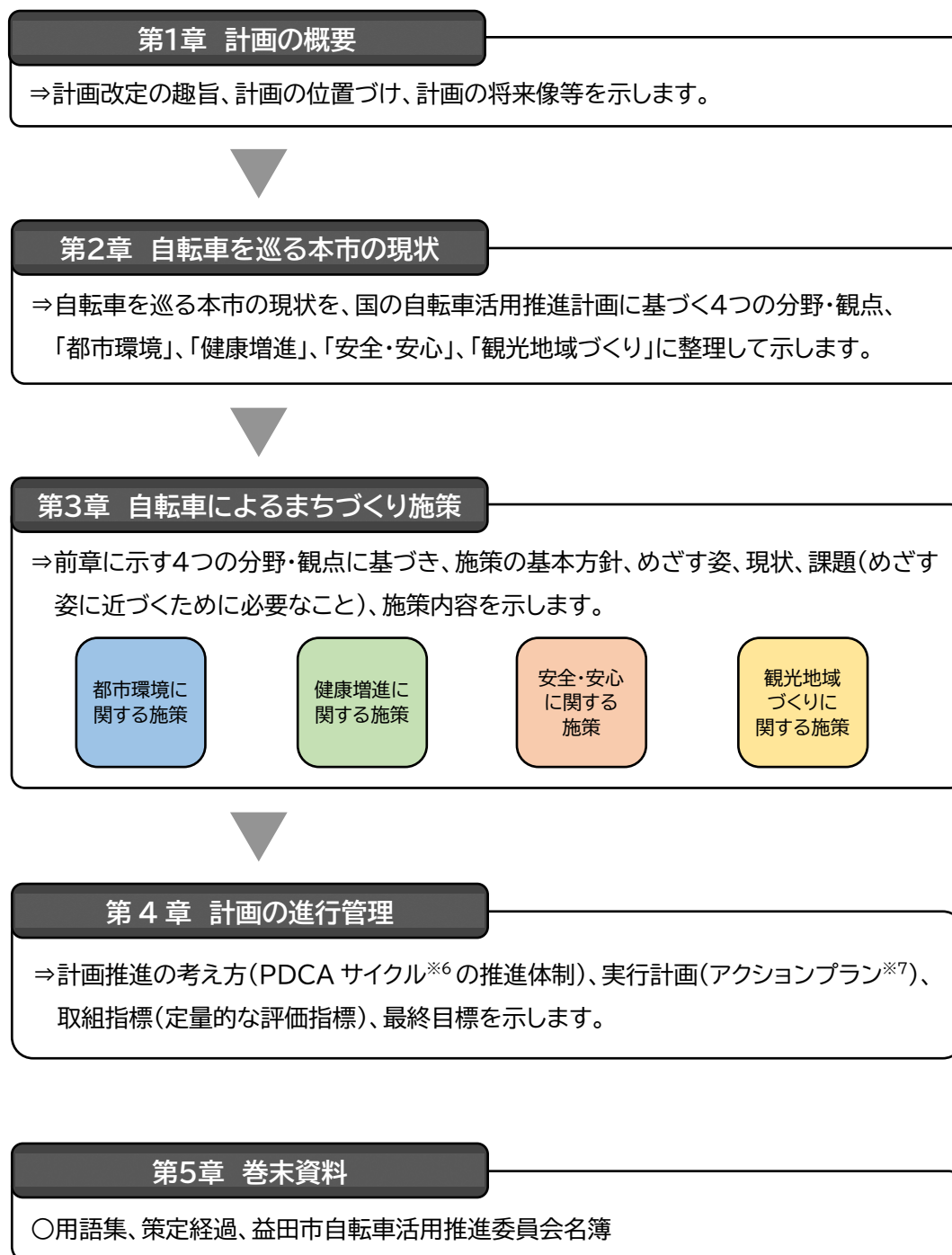
※3 サイクルツーリズム：自転車を活用した観光の総称。

※4 かわまちづくり計画：河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す「かわまちづくり」の実現に向けて、国土交通省の支援制度に登録するため、市町村等の推進主体が作成する計画。

※5 自転車ネットワーク計画：安全で快適な自転車通行空間を効果的、効率的に整備することを目的に、自転車ネットワーク路線を選定し、その路線の整備形態等を示した計画。

1-2 計画の構成

本計画は、次に示す第1章～第5章で構成します。



計画の構成

※6 PDCA サイクル：事業活動におけるマネジメント手法の一つであり、「計画(Plan)」、「実施(Do)」、「確認(Check)」、「改善(Action)」という業務の一連の流れについて順次実行し、継続的な改善を図る仕組み。

※7 アクションプラン：設定した目標を達成するために必要な具体的な行動や手順、期日(スケジュール)等を示した計画。

1-3 計画の位置づけ

(1) 上位・関連計画

本計画は、本市における自転車の活用に関する施策を総合的に推進するために、自転車活用推進法第11条(市町村自転車活用推進計画)の規定に基づく計画として策定します。

策定にあたっては、国の「第2次自転車活用推進計画」及び「島根県自転車活用推進計画」を踏まえるとともに、本市の最上位計画である「益田市総合振興計画」に基づく自転車施策に関するマスタープランとして位置付け、「益田市自転車ネットワーク計画」をはじめ、各種の関連計画との整合を図ります。

【国の法律・計画】

自転車活用推進法（平成29年5月施行）

- ・自転車の活用による環境負荷の低減、災害時における機動的特性
- ・自動車の依存の程度低減による国民の健康増進及び交通の混雑緩和
- ・交通体系における自転車の役割の拡大
- ・交通の安全確保

第2次自転車活用推進計画（令和3年5月閣議決定）

- 自転車の活用の推進に関する総合的な計画、以下4つの目標を設定。
- ・自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成
 - ・サイクルスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現
 - ・サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現
 - ・自転車事故のない安全で安心な社会の実現

【島根県の計画】

島根県自転車活用推進計画（令和2年6月策定）

【益田市の上位計画】

「第6次益田市総合振興計画」 「益田市国土強靱化地域計画」
「第2期まち・ひと・しごと創生
益田市総合戦略」

益田市自転車活用推進計画

益田市自転車ネットワーク計画（自転車関連計画・ハード施策）

【益田市の関連計画】

（都市） 益田市都市計画マスタープラン、益田市立地適正化計画
（環境） 益田市地球温暖化対策実行計画
（健康） 第2次健康ますだ市21計画
（公共交通） 益田市地域公共交通計画
（交通安全） 第11次益田市交通安全計画 など

計画の位置付け

(2) 益田市自転車ネットワーク計画について

令和2年に策定した第1次計画において、「自転車を快適に利用することができる“まち”の形成」に向けた重点施策として、自転車通行空間※⁸等の効果的かつ効率的な整備の推進を図るため、令和5年5月に「益田市自転車ネットワーク計画」を策定しました。

自転車活用の推進に向けた取組と自転車通行空間等の整備といったソフト・ハードが両輪となった自転車によるまちづくりを推進します。



益田市自転車ネットワーク計画
誰もが安全・快適に利用できる道路空間の創出

**自転車も歩行者・自動車も
誰もが安全・快適に利用できる道路空間の創出**

基本方針1 益田市の地域特性を踏まえた効果的な自転車ネットワークの形成
基本方針2 自転車と歩行者の安全性を両立した自転車通行空間の整備推進
基本方針3 交通ルールの遵守・他者への配慮による安全で安心なまちづくり

益田市自転車ネットワーク計画

出典：益田市自転車ネットワーク計画（令和5年5月）

※⁸ 自転車通行空間：自転車が通行するための道路、又は道路の部分。

(3)益田市版SDGsについて

① 国際社会におけるSDGs

2015 年の国連サミットにて採択された SDGs(エスディジーズ)^{※9} は、「誰一人取り残さない社会の実現」を理念として、環境や健康、持続可能な消費など、世界の様々な問題を 2030 年(令和 12 年)までに解決するための国際的な開発目標であり、17 の目標(ゴール)を設定しています。



SDGs の 17 の開発目標

② 益田市版SDGs

本市では、SDGs を推進するに当たり、「何を目指せば良いのか」という視点から、国連の目指す「誰一人取り残さない」という基本理念と 17 の目標の方向性を継承しつつ、本市の地域課題等を踏まえ、それぞれの目標が示す方向性を益田市に置き換えた「益田市版 SDGs」を設定しています。

益田市版 SDGs の 17 の開発目標

国連 SDGs		益田市版 SDGs
	➡	①地域共生社会を実現しよう 一人ひとりが抱える問題に寄り添い、市民みんなで地域共生社会を実現するまち
	➡	②地産地消でより豊かな生活を 地産地消により、生活の質が向上するまち
	➡	③心身の健康と安心できる生活をみんなに 生涯を通じて心身ともに健康で、子どもから高齢者まで安心して生活ができるまち
	➡	④子どもも大人も一緒に成長しよう 地域の中で子どもたちの「生きる力」を育み、大人も一緒に成長できるまち
	➡	⑤「自分らしく」を尊重しよう 性差に関わらず、誰もが自分らしく生活できるまち

^{※9} SDGs : Sustainable Development Goals の略称。2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。

益田市版 SDGs の 17 の開発目標

国連 SDGs		益田市版 SDGs
6 安全な水とトイレを世界中に	▶	⑥豊かな水辺環境を守ろう 高津川を始めとした美しい水辺環境がいつまでも残るまち
7 持続可能なエネルギー	▶	⑦自然を活かしたエネルギーでクリーンなまちに バイオマスなどの自然を活かしたエネルギーが供給できるまち
8 働きがいも経済成長も	▶	⑧「このまちで働きたい」をかなえよう 地域を支える産業が安定して営まれ、「このまちで働きたい」をかなえるまち
9 産業と雇用革新を加速させる	▶	⑨時代に適応した産業・通信基盤をつくろう 先端技術を活用し、新たな時代に適応できる産業基盤や通信基盤が整備されたまち
10 人や国の不平等をなくそう	▶	⑩平等なまちを実現しよう 互いの人権を尊重し、誰もが暮らしやすい社会が実現するまち
11 持続可能な都市を築こう	▶	⑪魅力ある地域の暮らしをいつまでも 地域の魅力を活かし、安心して住み続けられるまち
12 つくって使って減らす循環	▶	⑫資源ロスの少ないまちに 限りある資源を有効に活用した、ロスの少ないまち
13 気候変動に具体的な対策を	▶	⑬自然災害に強くしなやかなまちに 平時から自然災害に備え、災害が起こっても強くしなやかに対応できるまち
14 海の豊かさを守ろう	▶	⑭豊かな日本海を守ろう 美しい日本海と、その恵みを活かした水産業が受け継がれるまち
15 陸の豊かさも守ろう	▶	⑮豊かな森林と美しい田畑を守ろう 豊かな森林・美しい田畑の景観と、その恵みを活かした農林業が受け継がれるまち
16 平和と公正をすべての人に	▶	⑯公平・公正と安心・安全をみんなに 公平・公正で開かれた行政運営のもと、誰もが安心・安全を感じられるまち
17 パートナーシップで目標を達成しよう	▶	⑰協働で目標や課題に取り組もう 市民みんなの協働により、あらゆる目標や課題に取り組むまち

1-4 計画の区域

本計画の区域は、益田市全域を対象とします。



計画の区域

1-5 計画の期間

本計画の期間は、令和 7 年度から令和 11 年度までの 5 年間とし、5 年ごとに更新します。また、本計画では、目標の達成状況について毎年、評価・検証を行います。

計画最終年度である令和 11 年度においては、「次期計画の策定」及び本市の自転車関連計画である「益田市自転車ネットワーク計画」との統合について検討します。

本市の自転車関連計画の計画						
R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度～
計画改定	第 2 次 益田市自転車活用推進計画(R7 年度～R11 年度)					計画改定
	検証 ●	検証 ●	検証 ●	検証 ●	評価・次期計画策定	↑
益田市自転車ネットワーク計画(R5 年度～R11 年度)						
	計画の一部改定 ・自転車ネットワーク路線の整備形態の確定				次期計画策定 ・自転車活用推進計画への統合を検討 ・サイクリングコース等を計画に位置づけ	

計画の期間

1-6 計画の将来像

本市では、誰もが自転車を利用しやすい環境の下で、さまざまな分野で効果をもたらす自転車を活用し、地域活性化に寄与する「自転車によるまちづくり」を推進するため、次の将来像を目指します。

暮らしやすいまち 訪れたいまち

100ZEROのまち 益田※10



100ZEROのまち

自転車が地域課題解決の追い風に

自転車で快適 100%・自転車事故がZEROのまち
益田を知らない人ZERO・益田は感動100%のまち

それは『暮らしやすいまち』
それは『訪れたいまち』



0歳から100歳まで
すべての人にとっても
暮らしやすいまちへ

自転車は安全・快適に

安全・安心のもとで快適に通行できる自転車通行環境が整ったまちへ。

自転車でもっと楽しく

市民が自転車に親しみ、自転車に乗る楽しみを知っているまち。自転車に乗ることで、毎日を生き生きと元気に暮らせるまちへ。

自動車・自転車・歩行者の共存を

自動車・自転車・歩行者が、相互に思いやり、すべての市民が安全・安心に移動できるまちへ。



益田の良いところ、全国・世界へ

豊かな自然やサイクリング環境、市民のおもてなしで、益田ならではの感動を与える「益田的観光スタイル」を全国・世界へ発信できるまち。そして訪れたいまちとして選ばれるまちへ。

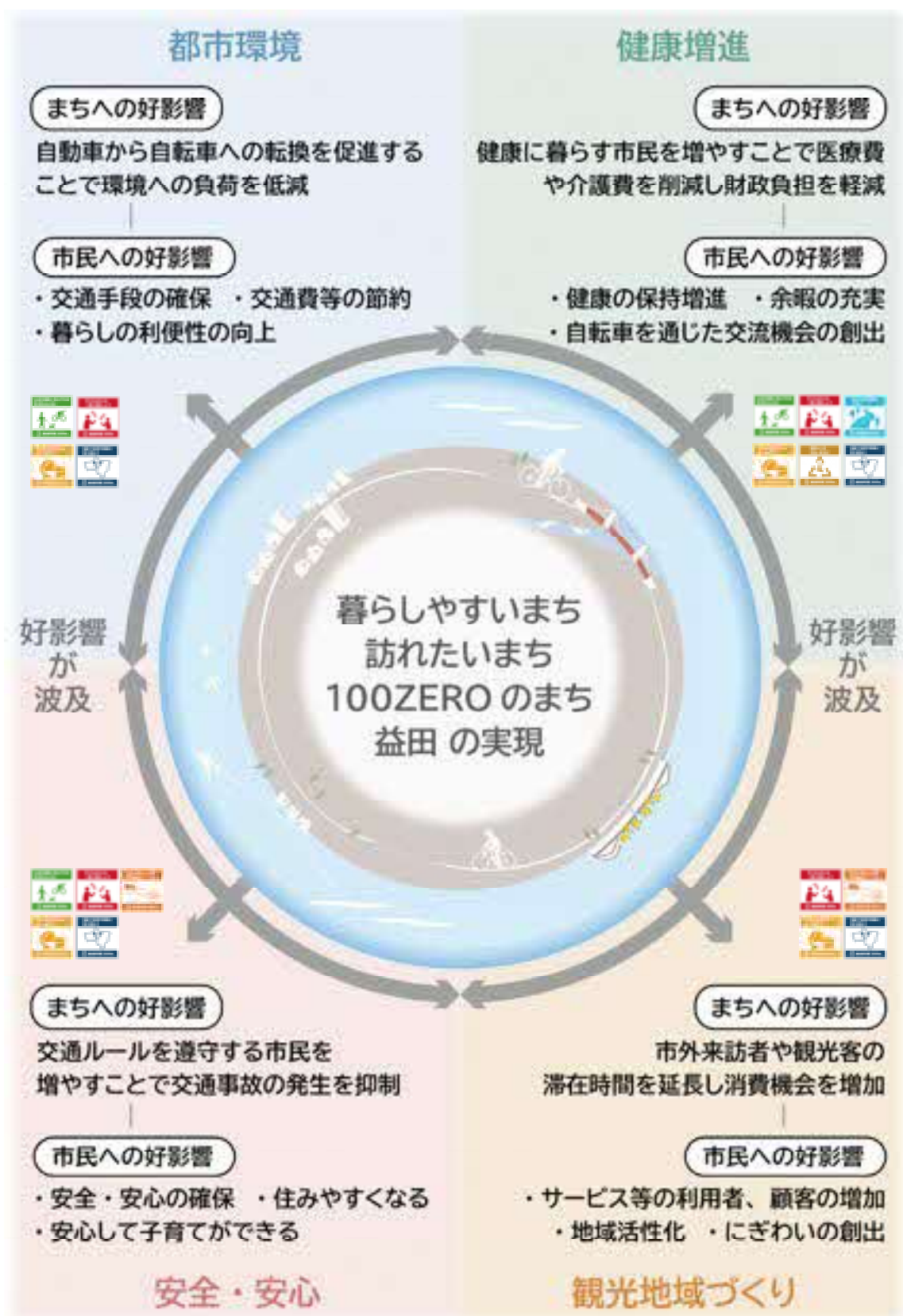
自転車を益田の新たな文化へ

自転車のイベントや大会を市民と一緒に楽しみ、盛り上げるまち。益田に訪れたすべてのサイクリストや来訪者との交流を通じて、市民が自転車文化を育むまちへ。

※10 100ZEROのまち：本市の「100km 走っても信号で止まる回数がZERO」のサイクリングコースに由来する標語。

1-7 自転車によるまちづくりでつくる好影響

自転車によるまちづくりを推進し、「まち」にも「市民」にも好影響を与えます。



第2章

自転車を巡る本市の現状

- 2-1 現況把握のための各種調査の実施について
- 2-2 都市環境
- 2-3 健康増進
- 2-4 安全・安心
- 2-5 観光地域づくり



2-1 現況把握のための各種調査の実施について

第2次益田市自転車活用推進計画の策定にあたり、統計資料等の活用による机上調査、市民や事業者・団体等を対象とした各種調査を実施し、自転車を巡る本市の現状を整理しました。

【本市の現状把握：机上調査】

- 統計資料等を用いた机上調査を実施し、地勢、人口、交通状況等の都市環境、観光入込客延べ数等の観光動態、自転車関連事故の発生状況等、自転車に関する本市の現状を整理しました。

【市民の意識把握：アンケート調査】

- 市民の自転車の利用状況や自転車活用に関する意識、ニーズ、施策に関する意向等を把握するため、市民、高校生を対象にアンケート調査を実施しました。

	市民アンケート	高校生アンケート
調査期間	令和6年7月10日～令和6年7月31日	令和6年7月内
調査対象	市内在住の18歳以上	市内4高校及び益田養護学校高等部の2年生
標本数	2,000人	482人
抽出方法	住民基本台帳から無作為に抽出	調査対象の全生徒
調査方法	郵送配布・郵送回収調査	学校での配布・回収調査
回収・取得数	788件(有効回収率:39.4%)	403件(回収率:83.6%)

※自転車の通学利用の多い高校生ユーザー（市民アンケートで把握できない18歳未満の市民）の利用状況や意向を把握するため、市内の高等学校5校を対象に高校生アンケートを合わせて実施した。

【事業者・団体の意向把握：事業者・団体ヒアリング調査】

- 第1次計画における施策の取組状況・進捗状況、市民の自転車に対する意識や利用状況の変化等を把握するため、関係事業者・団体等を対象にヒアリング調査を実施しました。

調査期間	令和6年7月～令和6年9月
調査方法	事前の協力意向を確認し、市より依頼文書を送付。ヒアリングシートを送付し、書面で回答をいただき、詳細確認が必要な場合は、対話形式によるヒアリング調査を実施。
調査対象	15事業者・団体

【庁内の方向性の共有：庁内ヒアリング調査】

- 第1次計画における所管施策の取組状況（進捗状況）、課題、継続意向、今後の自転車関連事業の展開の方向性等を把握するため、庁内ヒアリング調査を実施しました。

調査期間	令和6年8月内
調査方法	第1次計画の取組施策を所管する関係各課に対して、ヒアリングシートを用いた書面による意向把握を実施。

2-2 都市環境

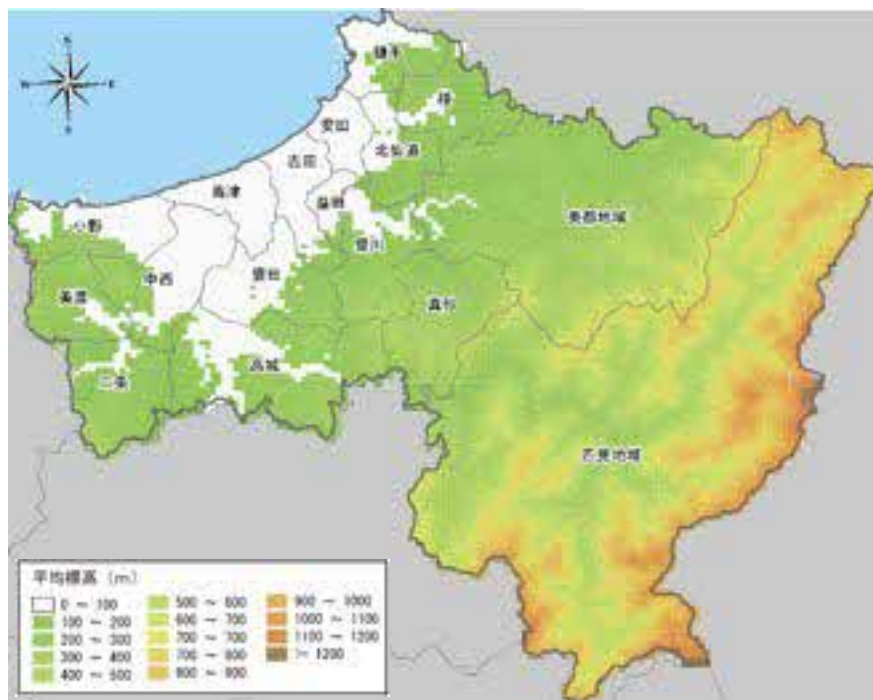
(1)地勢・人口

① 地勢

本市の総面積は 733.19km² と県内最大の市域を有しており、市域の約 8 割を山林が占めています。

市北部は日本海に面し、南部は 1000m級の山々が連なるなど、海や山、川沿いの景観を楽しむことができ、サイクリングに適した豊かな自然環境にあります。

市街地である平野部は、起伏が少なく自転車が利用しやすい地理的条件にありますが、郊外や山間部では、起伏に富み、日常的な自転車利用が困難な地域も存在しています。



標高図

出典:国土数値情報 標高・傾斜度 5 次メッシュデータ(平成 23 年)



市街地の状況

出典:益田市

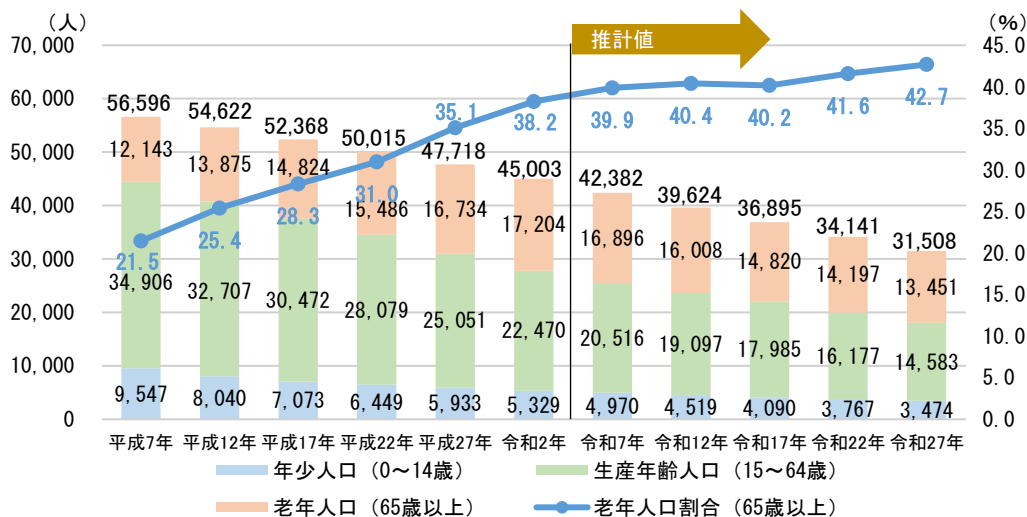


山間部の状況

出典:益田市

② 人口推移

令和2年の人口は45,003人となっており、平成12年からの20年間で約9,600人減少しています。将来人口は、令和7年以降、どの人口区分でも人口減少の推計がされています。特に年少人口・生産年齢人口の減少が著しく、令和27年では老年人口の割合が42.7%に達すると推計され、少子高齢化が今後も進行するとされています。



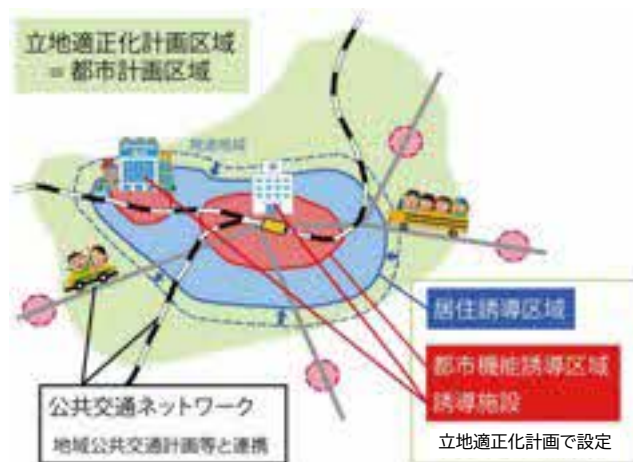
人口推移

出典：2020年までは国勢調査、2025年以降は社人研推計値(2018)

③ コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり

本市では、人口減少や少子高齢化が進行する社会においても、持続可能な都市を実現するため、令和5年3月に「益田市立地適正化計画」を策定しました。

持続可能で利便性の高い市街地形成を目指すとともに、自家用車に頼らない暮らしの実現に向けて、「コンパクト・プラス・ネットワーク^{※11}」のまちづくりを進めています。



コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり

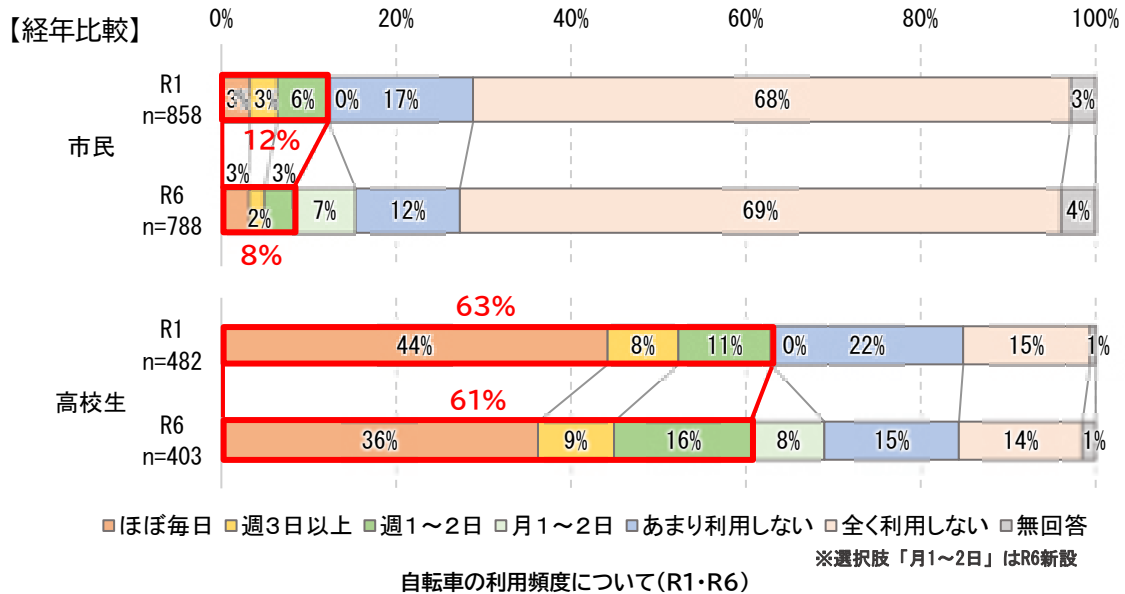
出典：益田市立地適正化計画(令和5年3月)

※11 コンパクト・プラス・ネットワーク：生活サービス機能と居住の誘導と、まちづくりと連携した公共交通ネットワークの形成により、都市の持続可能性の確保を目指す考え方。

(2)市民の主な交通・移動手段

① 市民の自転車利用の頻度

日常的な移動手段として、自転車を週1回以上利用する市民の割合は1割未満となっています。
自転車通学者を含む高校生では、週1回以上の利用が約6割となっています。

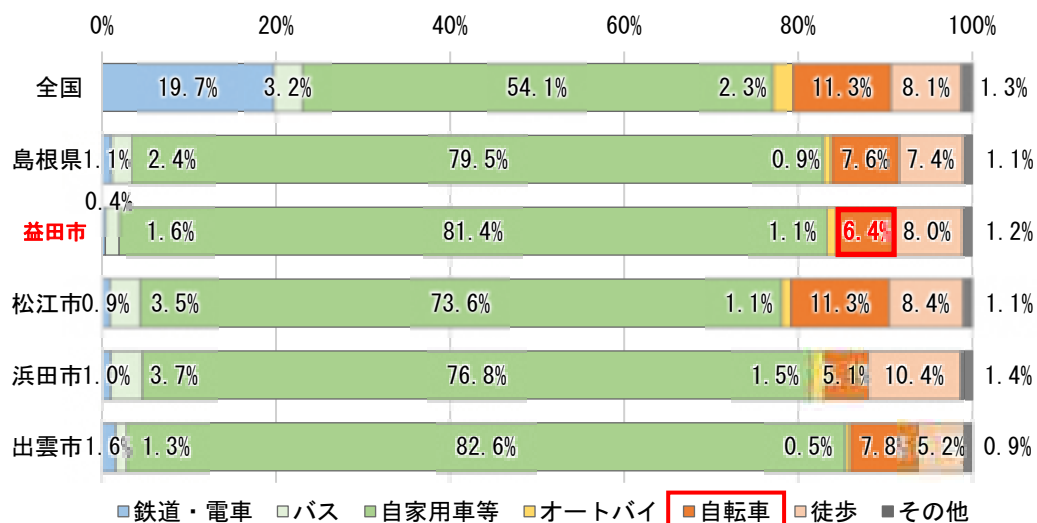


出典：第2次 益田市自転車活用推進計画策定に係るアンケート調査(令和6年7月)

② 通勤・通学時の交通手段分担率

本市の通勤・通学時における交通手段分担率は、「自家用車等」が8割を超えており、島根県全体、全国、他市と比較して自家用車への依存度は高くなっています。

また、「自転車」の割合は約6%と低く、島根県全体、全国、他市と比較して低い状況です。



通勤・通学時の利用交通手段の割合(15歳以上)(R2)
「利用交通手段が1種類のみ」の集計

出典：国勢調査(令和2年)

(3)自転車通行空間に関する取組

① 自転車通行空間の整備の推進

本市では、令和5年5月に策定した「益田市自転車ネットワーク計画」に基づき、市街地を整備優先エリアとして、自転車ネットワーク路線における自転車通行空間の整備を推進しています。



《整備イメージ》

当該路線を益田市の地域事情を考慮して、次の「自転車専用通行帯」「車道混在」「自歩道内安全対策」の3つの形態で整備をしていきます。

自転車専用通行帯	車道混在	自歩道内安全対策
- 自転車の走行位置と進行方向を示す通行帯を整備する。 - 車道と自転車を視覚的に分離する。 - 幅員 1.5m以上。 (やむを得ない場合 1.0m以上)	- 車道に自転車の通行位置を矢羽根等で示し、自動車に注意喚起を促す。 - 幅員 1.0m以上。 (交通状況に応じ 0.75m以上)	歩道内での通行位置の分離や自転車の降車、徐行を促す表示等で歩行者の安全を確保する。
		
写真出典:国土交通省ウェブサイト (https://www.mlit.go.jp/road/road/bicycle/index.html)		出典:仙台市 自転車通行空間における 法定外表示ガイドライン

益田市自転車ネットワーク路線路線図と整備イメージ

出典:益田市自転車ネットワーク計画(令和5年5月)

（4）自転車利用環境に関する取組

① 駐輪場施設の利用状況

駅前ビル立体駐車場の駐輪場施設は、自転車収容能力392台に対し、約3割程度の定期利用がみられます。一時利用については、日平均で9～10台程度の利用となっており、1時間以内（無料）の利用が約2割、1時間以上（有料）の利用が約8割となっています。

高校生などの定期利用者に対しては、当該駐輪場の利用方法について周知を行っています。

ヒアリング調査より、現状、益田駅周辺では恒常的な放置自転車はほとんど確認されていません。



一時利用料金
①1時間以内の利用：無料
②1時間を超え、24時間以内：100円
③1日経過ごとに②に100円を加算

定期利用料金
・1ヶ月定期：510円（共通）
・6ヶ月定期：一般 3,060円
高校生以下 2,090円

駅前ビル駐輪場

出典：益田市

② 道路の除草活動

本市では、市民協働による道路の除草を毎年度実施し、良好な道路環境の維持に努めています。



市民との協働による清掃ボランティア活動の様子

出典：益田市

③ 公共交通との連携状況

バスとの連携

本市のバスネットワークは、路線バスが益田駅を中心に放射状に延び、それに接続する乗合タクシー、過疎バス等で形成されています。

一方、自宅からバス停までの距離が 500m以上離れている集落が点在しており、公共交通の利用が不便な地域が存在しています。一部のバス停では、サイクルアンドバスライド※¹² ができるよう、バス停付近に駐輪場が設置されています。



サイクルアンドバスライド例(石見交通)

鉄道との連携

近年、全国的なサイクルツーリズムの高まりから、鉄道事業者によるサイクルトレイン※¹³ の取組がみられます。

本市では、輪行※¹⁴ による鉄道車両内への持ち込みはできますが、現状として、鉄道を利用するサイクリストは少なく、サイクルトレインの取組には至っていません。



サイクルトレイン例

出典：国土交通省 HP

空港との連携

萩・石見空港を活用した首都圏からのサイクリスト誘客に向けて、萩・石見空港サイクルステーションが平成 29 年 9 月に設置され、飛行機で訪れ、空港スタートでサイクリングが楽しめるよう受入れ整備がされています。



萩・石見空港サイクルステーション

公共交通と自転車の連携に向けた検討

サイクルアンドバスライドの利用者やサイクリストの鉄道利用者は現状として少ない状況ですが、持続可能な公共交通体系の構築、公共交通の利便性向上の観点からも、公共交通と自転車の連携について、利用実態やニーズを把握し、必要に応じた整備の検討が求められます。

※¹² サイクルアンドバスライド：自宅などの出発地点から自転車で最寄のバス停まで行き、バス停付近の自転車駐輪場に駐輪し、バスに乗り換えて目的地に向かうこと。

※¹³ サイクルトレイン：自転車を解体せずに鉄道車両内に持ち込めるサービス。

※¹⁴ 輪行：公共交通機関(鉄道、飛行機など)を利用して自転車を分解して運ぶこと。

2-3 健康増進

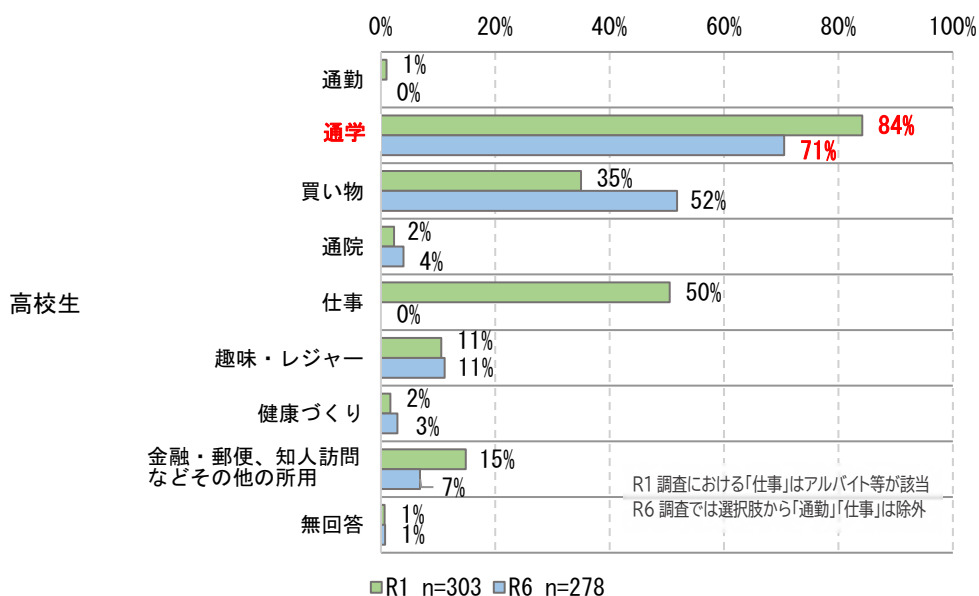
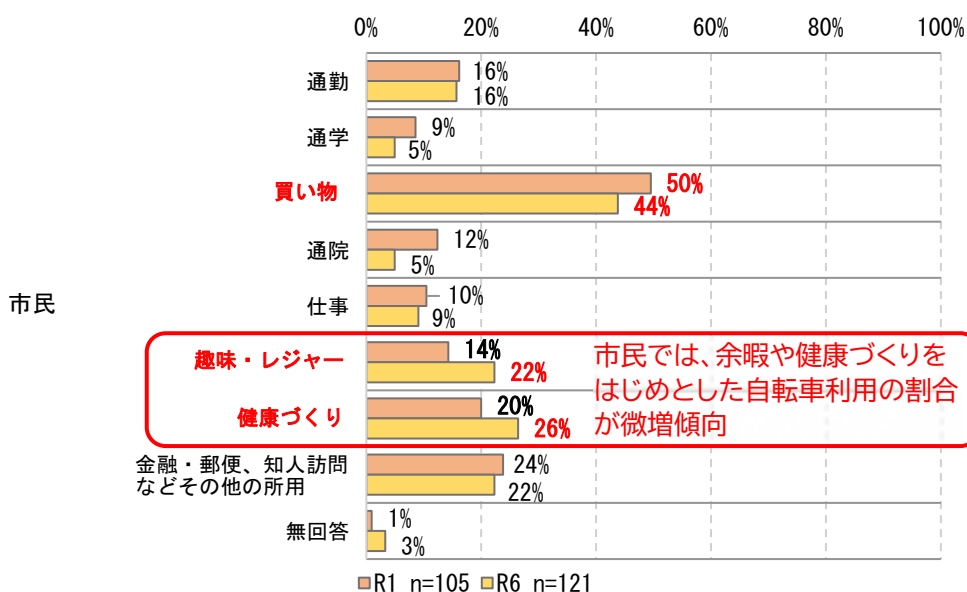
(1)市民の自転車を活用した健康づくり

① 市民の自転車の利用目的

自転車を利用する目的について、市民では「買い物」、高校生では「通学」の割合が最も多くなっています。

市民では「趣味・レジャー」、「健康づくり」といった、余暇や健康づくりをはじめとした自転車利用の割合が微増傾向となっています。

【経年比較】



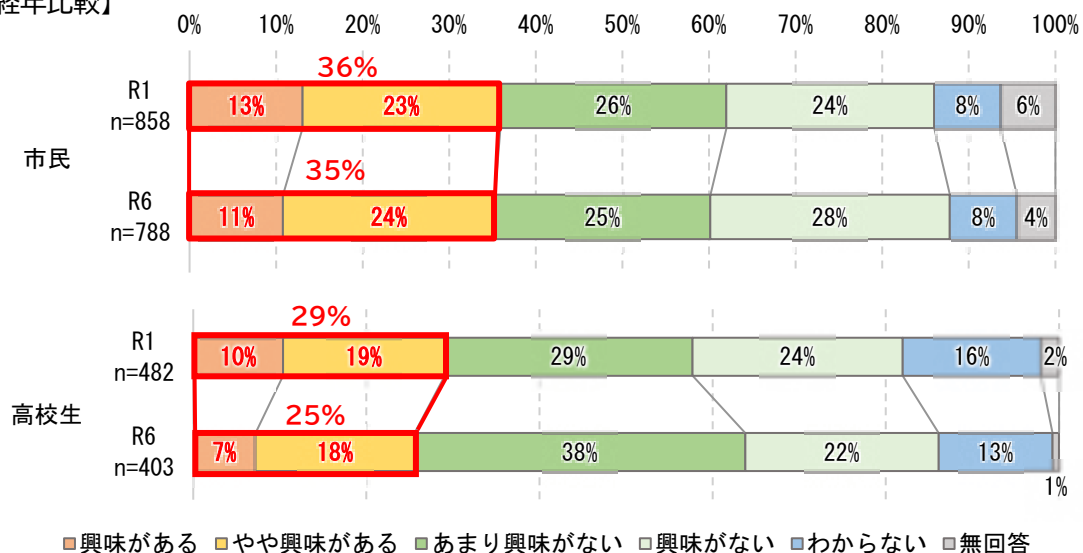
自転車利用者の「自転車の利用目的」(R1・R6)

出典：第2次 益田市自転車活用推進計画策定に係るアンケート調査(令和6年7月)

② 自転車を活用した健康づくりへの関心

自転車を活用した健康づくりについて、市民では約4割、高校生では約3割が興味の意向を示しています。

【経年比較】



自転車を活用した健康づくりへの興味(R1・R6)

出典：第2次 益田市自転車活用推進計画策定に係るアンケート調査(令和6年7月)

（2）自転車利用の機会創出に関する取組

① 益田市高津川かわまちづくり計画の登録

令和4年8月に国土交通省のかわまちづくり計画として、「益田市高津川かわまちづくり計画」が登録されました。新たな市民レクリエーションの場として、水辺拠点の創出、河川管理用通路の活用による高津川を周遊できるサイクリングコースの整備等が計画されています。



益田市高津川かわまちづくり

出典：国土交通省 HP

② 自転車活用推進事業補助金の創設

本市では、民間団体等による自転車に親しむ機会の創出を支援することを目的として、令和4年度に「自転車活用推進事業補助金」を創設しました。令和5年度の活用実績は6件となっています。



【益田のアクティビティ体験^{※15}】
・高津川カヤックとサイクリングを
楽しめるイベントの実施

【はじめてのよくばりチャリダー】
・デイキャンプイベントに合わせて自転車の乗り方
教室とサイクリングを実施

自転車活用推進事業補助金活用事例(R5 年度)

出典：益田市

※15 アクティビティ：特定の目的や楽しみを追求するために行う行動や事柄。(余暇、旅行先での)遊び、体験活動など。

③ 市民向け自転車イベントの開催

自転車を楽しむだけでなく、自転車で楽しむ場をつくることをコンセプトに、子どもから大人まで、自転車の楽しさを感じてもらえる市民向け自転車イベントとして「ますだチャリフェス」を令和 5 年より開催し、初開催のイベントには約 500 名の市民が参加するなど、市民に向けて自転車に関心を持ってもらえる機会創出の取組を進めています。



ますだチャリフェスの開催

出典：益田市スポーツ協会

④ サイクルススポーツ振興事業の推進

2030 年に開催される「島根かみあり国スポ 2030」において、本市が自転車（ロード・レース）競技の会場地に選ばれたことを契機として、自転車競技の認知度向上、競技力向上を目的に、令和 5 年度に「益田チャリキッズ育成プロジェクト（ロードレース※¹⁶ 人材の育成）」が始動し、サイクルスポーツの普及に向けた取組を進めています。



ロードレース人材の育成事例（益田チャリキッズ育成プロジェクト）

出典：益田市スポーツ協会

⑤ 行政職員を対象としたマイサイクルデーの推進

市民の自転車利用の意識の定着、自転車に親しむ機会の創出のため、市役所職員について、毎月「8」の付く日を「マイサイクルデー（積極的な自転車活用の日）」に設定し、自転車通勤の実施モデルを展開しています。

※¹⁶ ロードレース（自転車競技）：舗装された道路を自転車で走り、ゴールの順番や所要時間を争う競技。

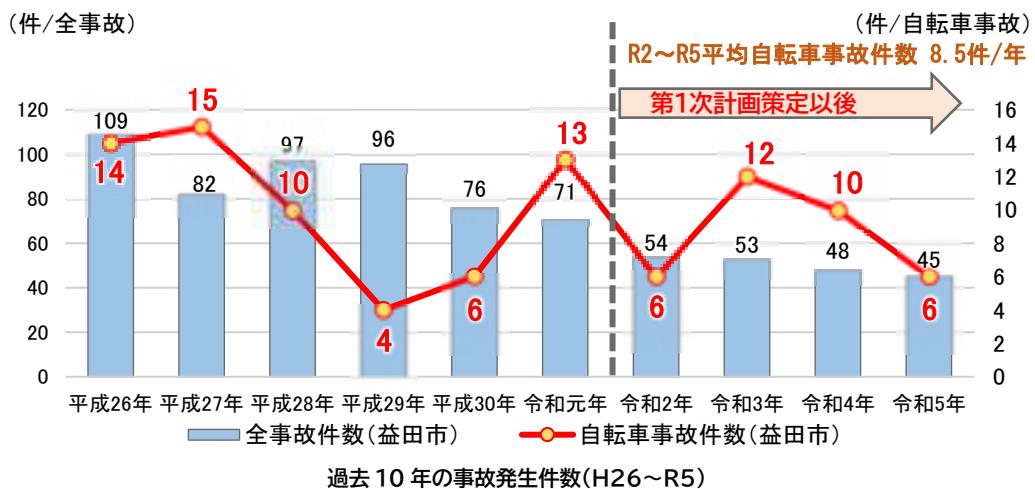
2-4 安全・安心

(1) 自転車関連事故

① 自転車関連事故の発生件数

本市の自転車関連事故の発生件数は、第1次計画策定以後の4年間(令和2年～令和5年)では平均8.5件/年となっています。

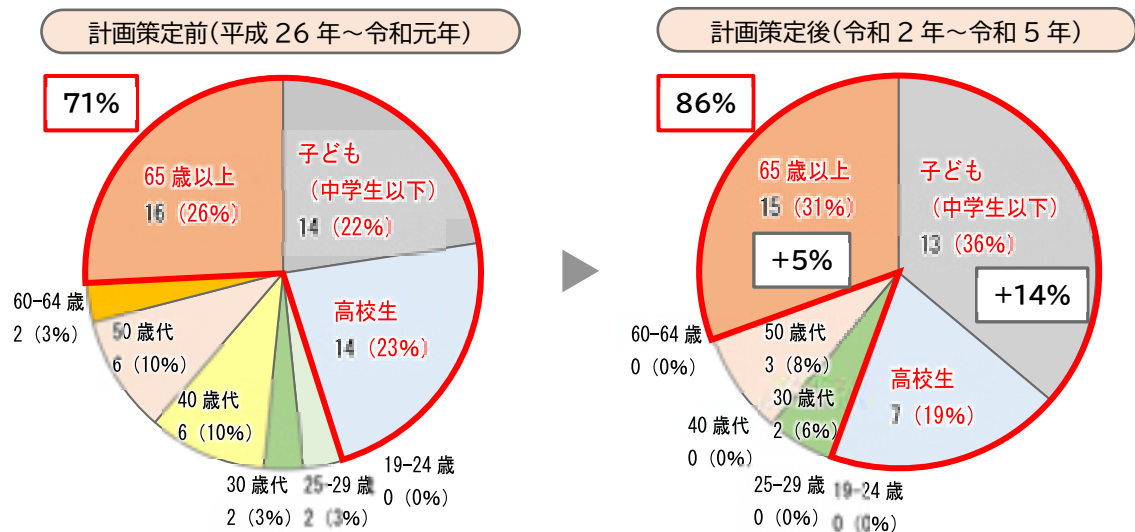
自転車関連事故は令和3年以降減少傾向にありますが、中長期(平成26年～令和5年)でみると事故件数は増減を繰り返しており、今後、再び増加することも考えられます。



出典:交通事故統計だより(島根県警察本部)

② 自転車関連事故の死傷者数

自転車関連事故による当事者の割合は、第1次計画策定以後の4年間(令和2年～令和5年)では、「高校生以下の子ども」、「65歳以上の高齢者」の割合がそれぞれ高まっており、全体の約9割を占めています。特に「中学生以下の子ども」の割合が14ポイント増加しています。



出典:交通事故統計だより(島根県警察本部)

③ 自転車関連事故の発生箇所

自転車関連事故の発生箇所は、主に市街地(小学校区 4 地区)に集中しています。

特に、市道の信号のない小規模交差点において、自動車との出会い頭の事故が多く発生しています。

▼ 全市での分布状況



▼ 市街地拡大(年齢・道路・形状別)



自転車関連事故の発生箇所

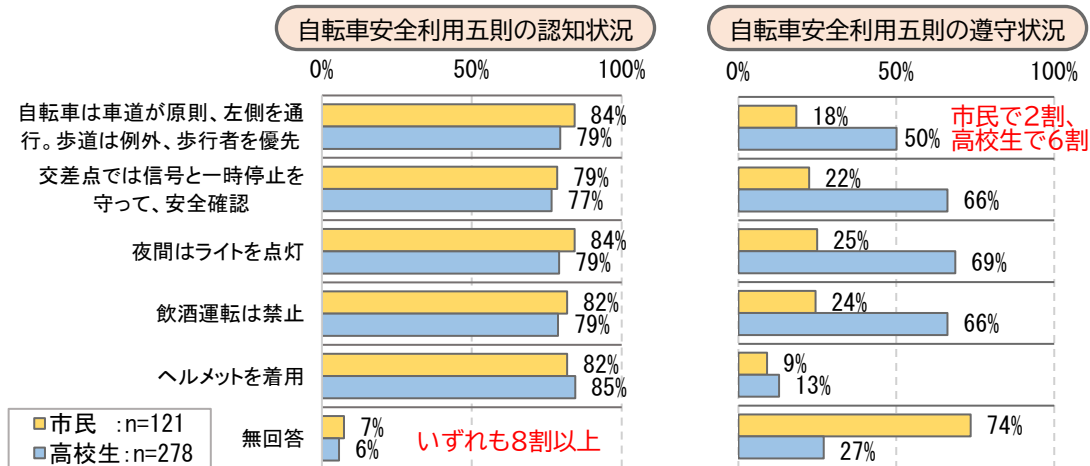
出典：島根県交通事故オープンデータ(島根県警察本部)

令和元年～令和4年(合計41件)

(2) 市民の自転車の安全利用に対する意識

① 自転車の交通ルールの認知状況・遵守状況

市民、高校生の自転車安全利用五則の認知度は、8割以上と高い一方、交通ルールの遵守状況は市民で2割、高校生で6割に留り、安全行動の実践に繋がっていない状況です。

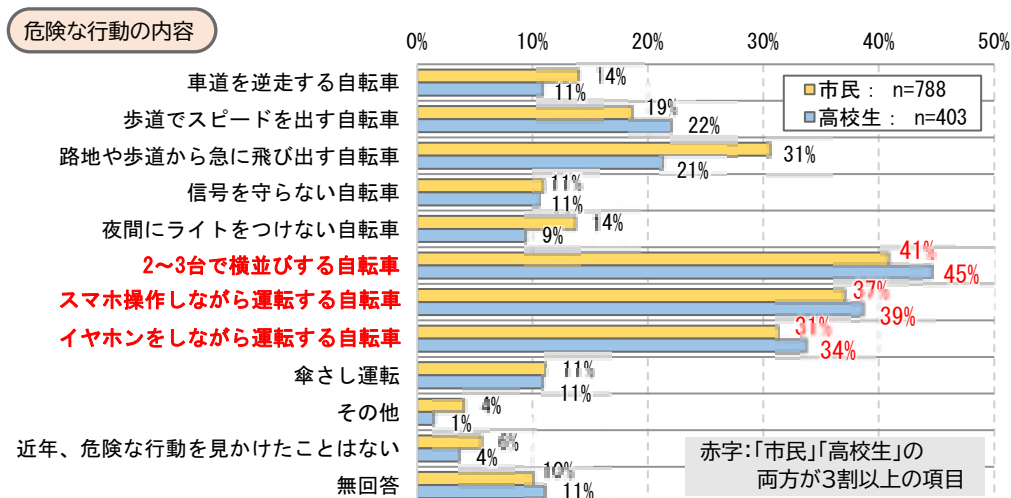
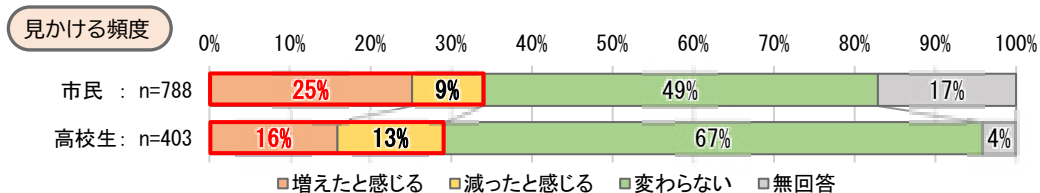


自転車利用者の「自転車安全利用五則」の認知・遵守状況（R6）

出典：第2次 益田市自転車活用推進計画策定に係るアンケート調査（令和6年7月）

② 自転車利用者の危険な行動を見かける頻度

自転車利用者の「危険な行動」を見かける頻度は、市民・高校生とも「増えた」が「減った」を上回っています。「危険な行動」の内容では、「2～3台で横並びする自転車」、「スマホ操作しながら運転する自転車」、「イヤホンをしながら運転する自転車」の割合が高くなっています。



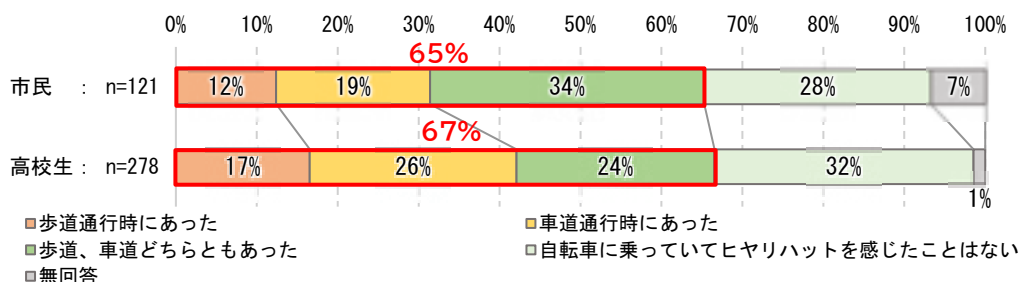
自転車利用者の「危険な行動」をみかける頻度、見かけることの多い自転車利用者の「危険な行動」（R6）

出典：第2次 益田市自転車活用推進計画策定に係るアンケート調査（令和6年7月）

③ 自転車利用時におけるヒヤリハット経験の有無

自転車利用者の約 7 割は、自転車利用時にヒヤリハット※17を経験しています。

ヒヤリハットの発生場所については、「歩道」よりも「車道」での割合が高くなっています。



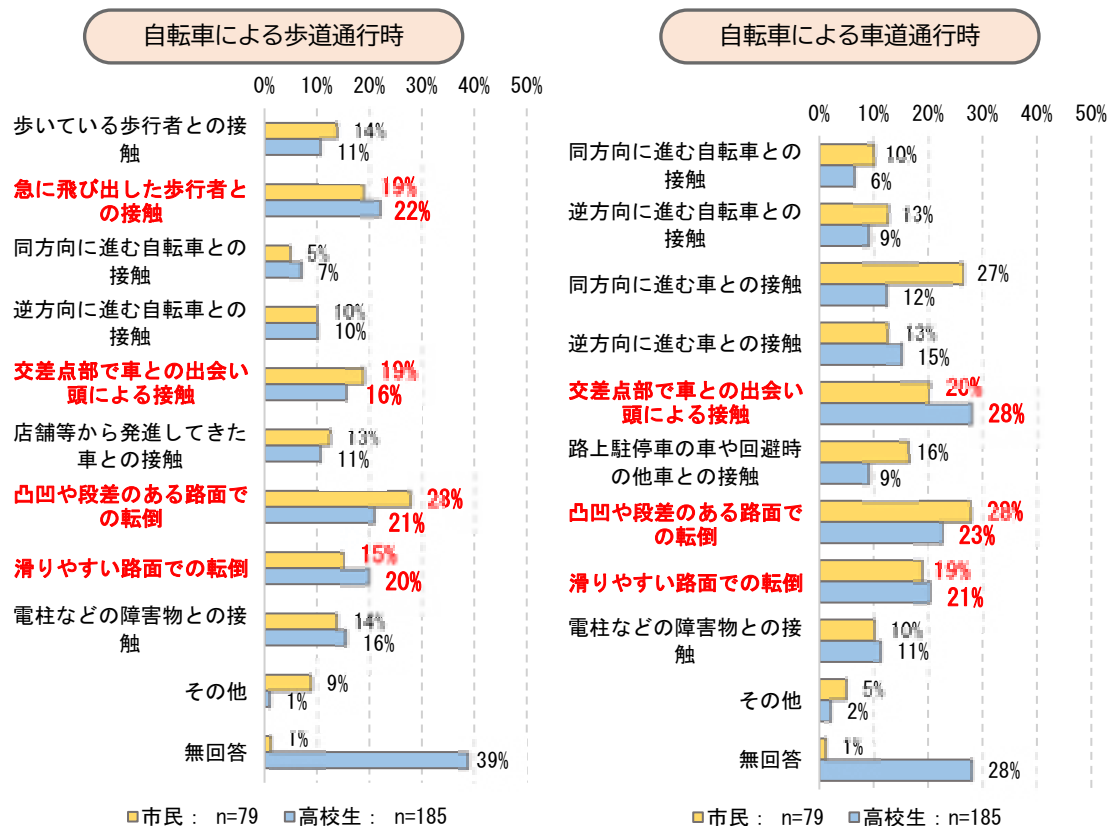
自転車利用時における「ヒヤリハット経験」の有無（R6）

出典：第 2 次 益田市自転車活用推進計画策定に係るアンケート調査（令和 6 年 7 月）

④ 経験したヒヤリハットの内容

歩道通行時では、「急に飛び出した歩行者との接触」、「交差点部で車との出会い頭による接触」、「凸凹や段差のある路面での転倒」、「滑りやすい路面での転倒」等の割合が高くなっています。

車道通行時では、「交差点部で車との出会い頭による接触」、「凸凹や段差のある路面での転倒」、「滑りやすい路面での転倒」等の割合が高くなっています。



赤字：「市民」「高校生」の両方が約 2 割（15%）以上の項目

自転車による歩道通行時・車道通行時のヒヤリハットの内容（R6）

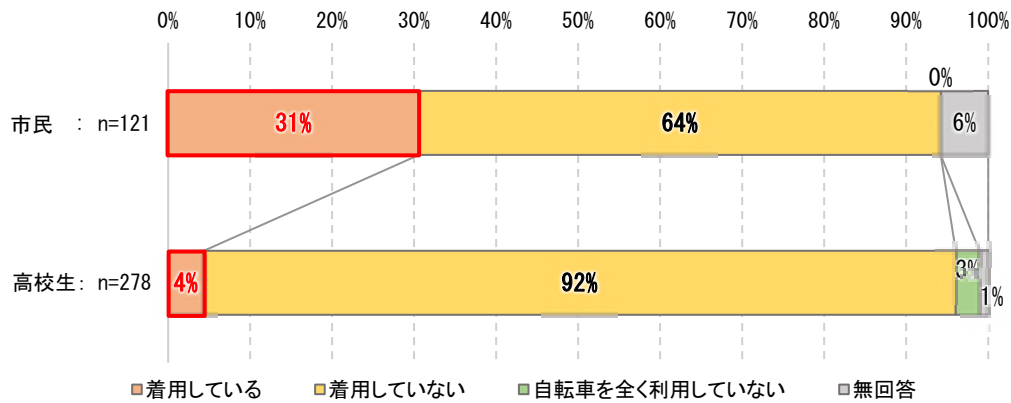
出典：第 2 次 益田市自転車活用推進計画策定に係るアンケート調査（令和 6 年 7 月）

※17 ヒヤリハット：「ヒヤリ」としたり「ハッ」としたりする危険な状況が起こったが、事故や災害には至らなかった事象。

⑤ ヘルメットの着用状況

自転車利用時におけるヘルメット着用は市民では約3割、高校生では1割未満と低い状況です。

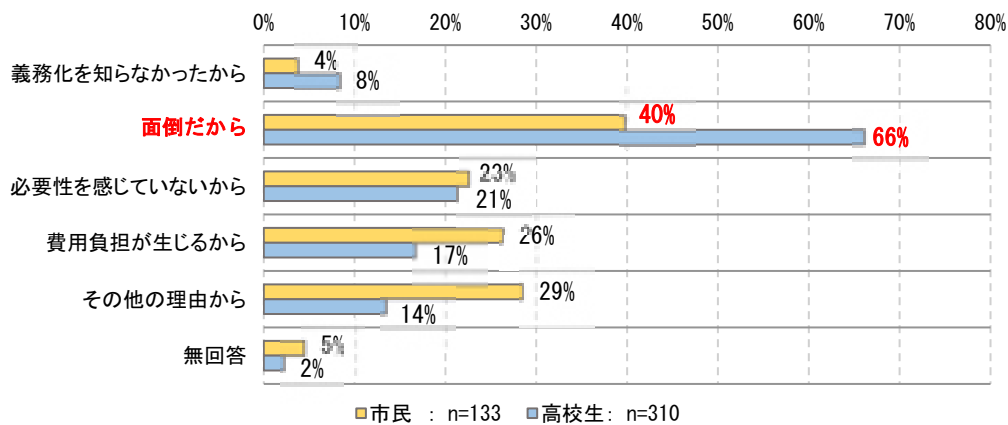
ヘルメットを着用しない理由として、自転車を利用者する市民、高校生に共通して「面倒だから」の割合が最も高く、市民では約4割、高校生では約7割となっています。



自転車利用者の「ヘルメット着用状況」(R6)

出典：第2次 益田市自転車活用推進計画策定に係るアンケート調査(令和6年7月)

自転車利用時にヘルメットを着用していない理由
(ヘルメットを着用していない自転車利用者のみ回答)



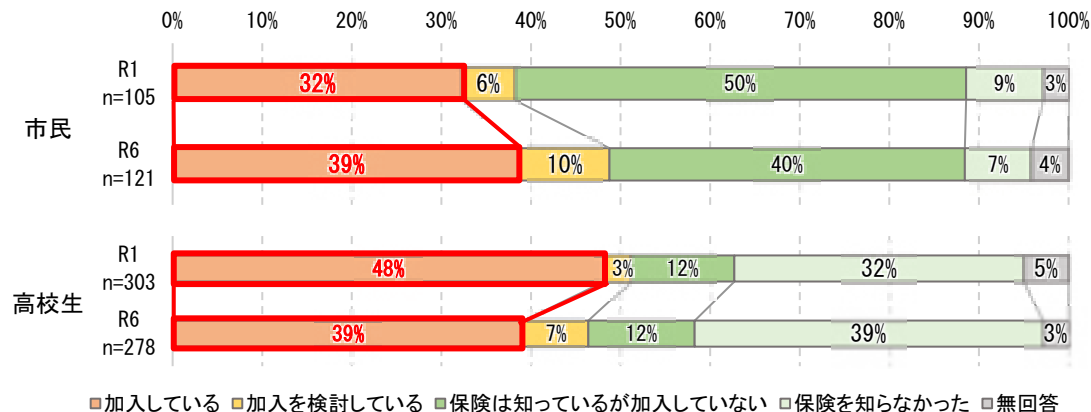
ヘルメットを着用しない理由 (R6)

出典：第2次 益田市自転車活用推進計画策定に係るアンケート調査(令和6年7月)

⑥ 自転車損害賠償責任保険等の加入状況

自転車利用者における自転車損害賠償責任保険に「加入している」割合は、市民、高校生とも約4割となっています。

【経年比較】



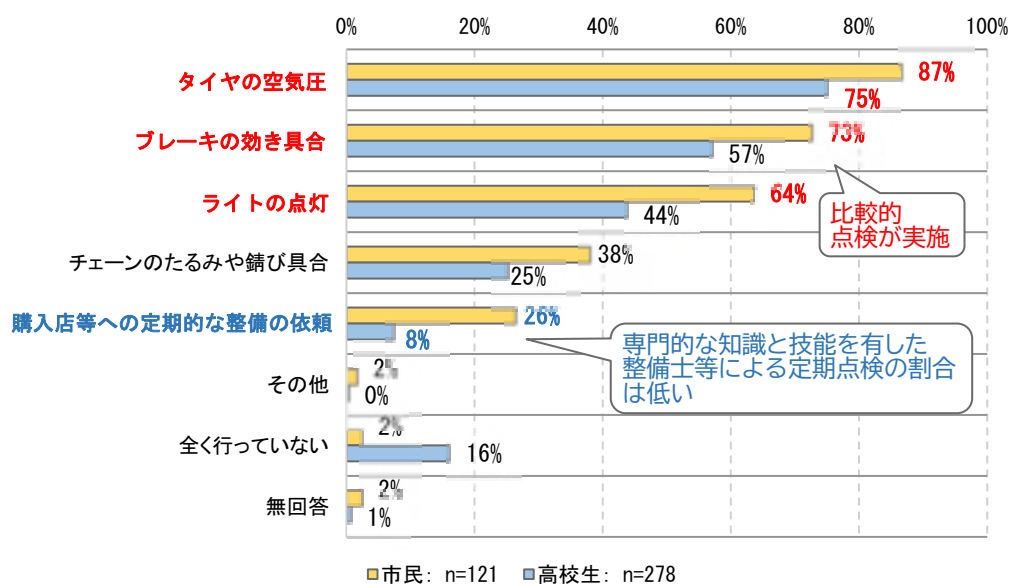
自転車利用者の「自転車損害賠償責任保険」の加入状況(R1・R6)

出典：第2次 益田市自転車活用推進計画策定に係るアンケート調査(令和6年7月)

⑦ 自転車点検の状況

自転車利用者の自転車点検状況は、市民では「タイヤの空気圧」、「ブレーキの効き具合」、「ライトの点灯」が6割以上となっていますが、高校生では「タイヤの空気圧」以外の点検項目は6割未満となっており、点検項目が少ない傾向にあります。

また、「購入店等への定期的な整備の依頼」は、市民では約3割、高校生では1割未満であり、専門的な知識と技能を有した整備士等による定期的な点検を受ける習慣がない状況です。



自転車点検の状況(R6)

出典：第2次 益田市自転車活用推進計画策定に係るアンケート調査(令和6年7月)

(3) 交通ルールの周知・啓発に関する取組

① 自転車交通安全教室の開催状況

学校教育での自転車安全教育の開催状況

本市では、年代に応じて段階的かつ体系的な交通安全教育を推進しており、小・中学校における交通安全教室の開催や、「自転車マナーアップモデル校(中学校・高校)」の指定によるモデル地域での講習会・意識啓発を実施しています。

他方、自転車関連事故やヒヤリハットが集中している市街地の小学校では、自転車での行動圏域がより広がる高学年(4～6 年生)に対して、自転車交通安全教室を受ける機会が少ない状況となっています。

小学校における交通安全教室の開催状況
(R5 実績)

小学校	対象学年						卒業までに受講できる回数
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
益田	○		○				2
高津	○	○	○	○	○	○	6
吉田	○		○				2
吉田南	○	○					2
安田	○		○	○			3
鎌手	○	○	○	○	○	○	6
真砂	○	○	○	○	○	○	6
豊川	○	○	○	○	○	○	6
西益田	○	○	○				3
桂平	○	○	○	○	○	○	6
戸田	○	○	○	○	○	○	6
中西	○	○	○	○	○	○	6
東仙道	○	○	○	○	○	○	6
都茂	○	○	○	○			4
西見	○	○	○	○	○	○	6
合計	15	12	14	11	9	9	70
平均	1.0	0.8	0.9	0.7	0.6	0.6	4.7

中学校における交通安全教室の開催状況(R5 実績)

中学校	対象学年			卒業までに受講できる回数
	1年	2年	3年	
益田	○			1
高津	○			1
益田東	○			1
東陽	○			1
横田	○			1
小野	○			1
中西				0
美都		○		1
西見	○	○	○	3
合計	7	2	1	10
平均	0.8	0.2	0.1	1.1

 自転車関連事故・ヒヤリハットが集中している地区（市街地）

社会教育での自転車安全教育の開催状況

市民全般を対象とした交通安全教室の開催は、警察への依頼に応じた個別対応を基本としており、その取組は限定的となっています。

益田警察署における市民全般を対象とした交通安全教室(自転車教室)の取組(R4、R5)

開催年	対象者	開催回数	参加人数	依頼者、参加状況の内訳
令和5年	一般	2	40	・企業依頼 (30名) ・公民館依頼 (10名)
	高齢者	1	30	・高齢者サロン依頼
令和4年	一般	1	5	・公民館依頼
	高齢者	1	5	・公民館依頼

自転車交通安全教室の開催状況

出典：益田市、益田警察署提供データ

② 市民に対する周知啓発

市民全般に対する広報・周知啓発の取組として、市 HP、広報誌(広報ますだ)等を活用し、「自転車安全利用五則」、「自転車損害賠償責任保険の加入促進」等の情報提供を行っています。



市民全般に対する周知啓発

出典:益田市

③ 交通安全イベントの実施

本市では、春と秋の全国交通安全運動にあわせ、「益田市交通安全ささえ愛2000(1000人の交通監視)」を継続して取り組んでいます。当該イベント通じて、自動車ドライバーに対する思いやり運転意識の意識啓発を実施しています。



益田市交通安全ささえ愛 2000 の様子

出典:島根県警察

2-5 観光地域づくり

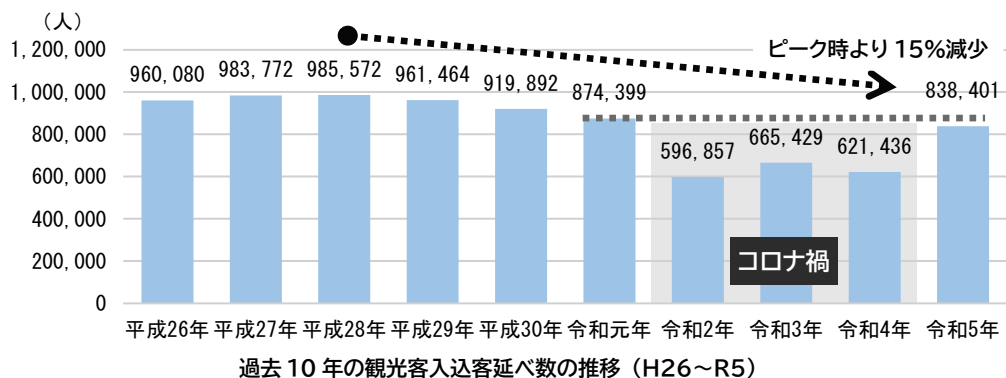
(1)本市の観光動向

① 観光入込客数・観光宿泊客延べ数の推移

観光入込客延べ数は、令和2年以降、コロナ禍により減少したものの、令和5年には約84万人とコロナ前（令和元年時）の水準と同程度まで回復しています。一方、観光入込客延べ数は、平成28年をピークとして、減少傾向にあり、ピーク時から約15%減少しています。

観光宿泊客延べ数は、令和3年に約27万人に達し、過去10年で最高水準となりました。令和3年以降、減少傾向にありますが、令和5年は約22万人となり、コロナ前（令和元年時）の水準から約17%増加しています。また、本市の宿泊客の観光・ビジネス割合では、ビジネス客が多くなっており、令和5年では宿泊目的の約7割が「出張・業務」となっています。

観光入込客延べ数



出典：益田市観光動態調査

観光宿泊客延べ数

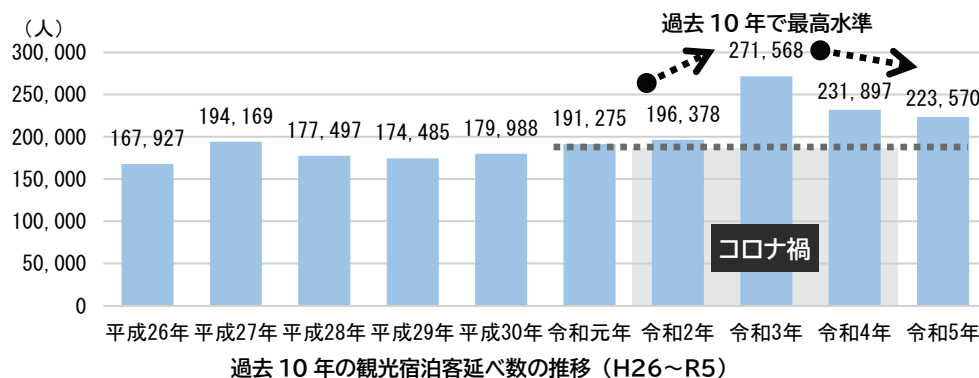


表 宿泊客の観光・ビジネスの割合（R5）

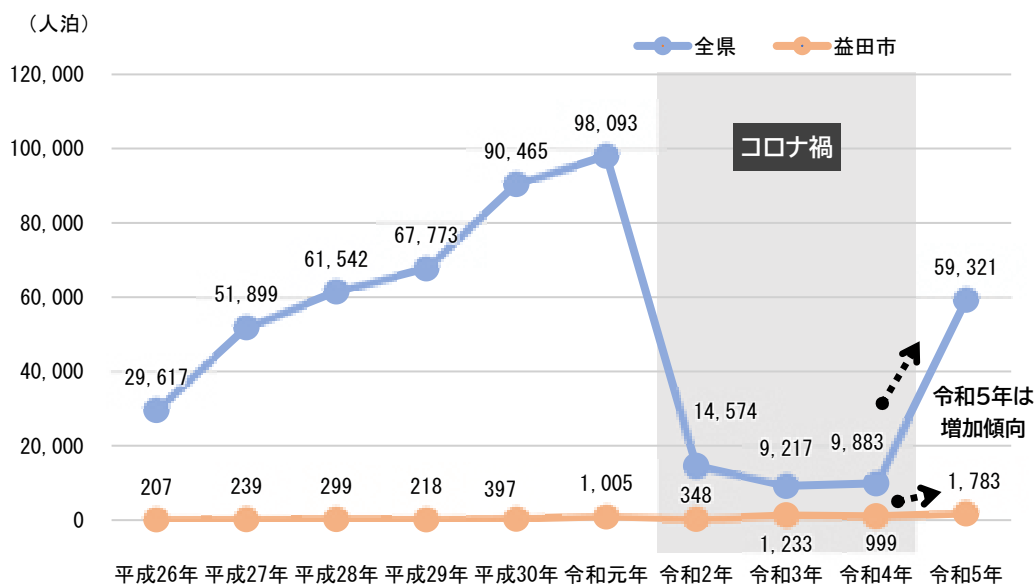
		ホテル	旅館	民宿・ペンション	公共施設	キャンプ場	計
宿泊客延べ数（人）		175,789	32,513	7,513	1,824	5,931	223,570
目的 （割合）	観光	25%	50%	24%	53%	100%	31%
	出張・業務	75%	50%	76%	47%	0%	69%

出典：益田市観光動態調査

② インバウンドの状況

本市の外国人宿泊客延べ数は、令和5年で約 1,800 人に達しましたが、全県の約 59,000 人に対しては約 3%の割合であり、依然として少ない状況にあります。

本市では、令和 2 年に、中世の益田にまつわるストーリーの「日本遺産」の認定※18 及び室町時代の画聖 雪舟ゆかりの庭園等を有する中国地方 6 自治体の連携による「雪舟回廊」のガーデンツーリズムの登録※19を受けています。インバウンドの拡大に向けては、これら外国人を含めた国内外の観光客にとって魅力ある地域資源を活用することで、本市の知名度を向上させていくとともに、自転車を活用した周遊促進等の充実を図り、選ばれる観光地域づくりを行うことが必要です。



過去 10 年の外国人宿泊客延べ数の推移 (H26～R5)

出典: 益田市観光動態調査



中世の益田にまつわるストーリーの日本遺産登録
「中世日本の傑作 益田を味わう - 地方の時代に輝き再び -」
出典: 文化庁



庭園間交流連携促進計画
(ガーデンツーリズム)の登録
出典: 雪舟回廊協議会

※18 日本遺産：「地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリー」を「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するもの。

※19 ガーデンツーリズム：各地域の複数の庭園の連携により、魅力的な体験や交流を創出する国土交通省の取組。
庭園間交流連携促進計画登録制度⇒[通称]ガーデンツーリズム登録制度

（2）サイクルツーリズムに関する取組

① 国内最大級の自転車展示会への出展

萩・石見空港の利用促進の観点やサイクルツーリズム・サイクリストの市場の大きさから、首都圏、関西圏を主な誘客ターゲットとし、国内最大級の自転車展示会である「サイクルモード東京」、「サイクルモードライド大阪」へ出展することで、本市の認知度向上に向けた PR 活動やサイクリストのニーズ把握の取組を行っています。



自転車展示会での出展状況
（左：サイクルモード東京、右：サイクルモードライド大阪）

出典：益田市

② 自転車イベントの開催

本市では、自転車で地域を巡り自然や食を楽しむ体験志向のイベントや、長距離を走るロングライドのイベントまで、参加者のニーズ・レベルに応じた多様なイベントを開催しており、市内外の子どもから大人まで幅広い年齢層の参加がみられます。

特に、毎年 9 月に開催される「益田 I・NA・KA ライド」では、日本で唯一現役の空港滑走路を走行でき、海沿い・山沿い・川沿いなど美しい自然を満喫しながら走ることができるファンライド※20として、市内外からの多くの参加者で賑わいを見せています。

一方、イベント時以外におけるサイクリストの来訪はまだ少ない状況です。サイクルツーリズムにおけるサービス提供の質を上げていき、自転車イベントがない時においても、訪れていただき満足してもらえる仕組みづくりが必要です。



自転車イベントの開催

出典：益田市 町おこしの会

※20 ファンライド：地域の景観やコース、地元地域との交流を楽しみながら走る自転車イベント。

本市では、(一社)益田市観光協会において、レンタサイクル事業を展開しています。

(台)

コロナ禍前の水準より微増

車両種別	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
電動アシスト付き自転車	284	150	214	275	294
普通自転車	161	119	121	174	168
クロスバイク	91	47	59	58	74
ロードバイク	23	16	15	19	11
ミニベロ	22	9	5	28	19
子ども用クロスバイク	16	5	3	3	1

■ 令和元年度 ■ 令和2年度 ■ 令和3年度 ■ 令和4年度 ■ 令和5年度

レンタサイクル利用台数の推移と月平均レンタル台数(R1～R5)

レンタサイクル×サイクルツーリズム推進に向けた取組

申し込みコース名：チェアリング×サイクリング

● 品田市内 初3時間 ☐ 通年 (年末年始12/29~1/3世間<)

料金：チェアリング代550円(税込)※ドリング代(150円～650円(税込))※レンタルサイクル代は、通常料金です。但し、スポーツタイプは税抜が無い為、利用できません。※チェアリング代には、折りたたみ椅子、荷台用ミニコンテナが含まれます。※ドリングは、提携店で利用できる引換券をお買い求めいただけます。

出典：益田市観光協会

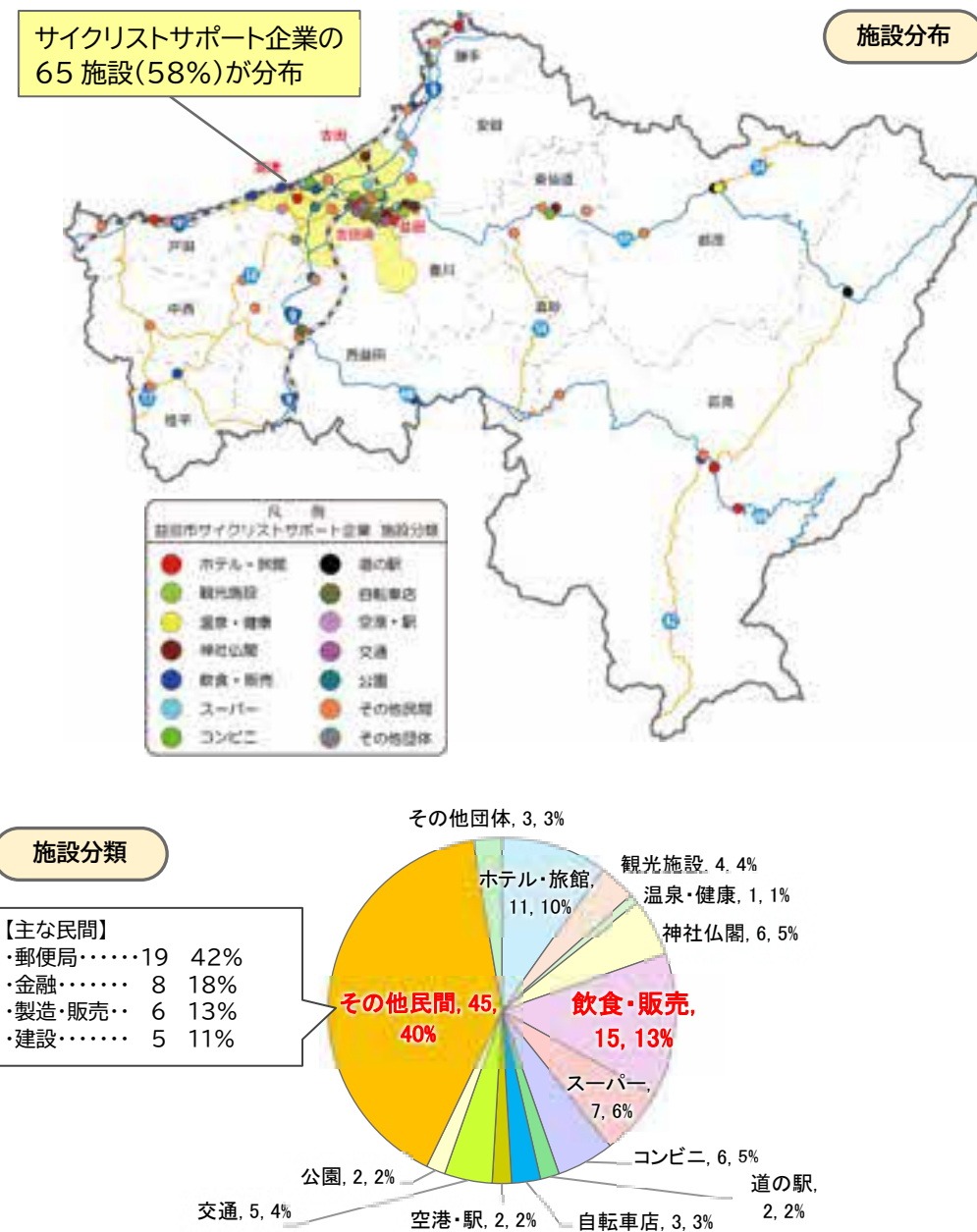
④ 益田市サイクリストサポート企業の状況

本市では、官民が一体となったサイクリストの誘客、サイクリストが気軽に立ち寄ることができる環境整備の一環として、平成 29 年から「益田市サイクリストサポート企業」を展開しています。

登録事業所では、「自転車の空気入れや工具の貸出し」、「トイレの利用」、「サイクルスタンドの設置」、「休憩場所の提供」等、自主的な取組による受け入れサービスが提供されています。

令和 5 年 12 月現在では、112 企業が協力しており、うち、65 施設(58%)は市街地に分布しています。

登録事業所の約 4 割(45 施設)は、郵便局や金融機関等の「その他民間」となっています。他方、立ち寄りによる観光消費が期待される「飲食・販売」の登録は約 1 割(15 施設)となっています。



出典：益田市公表データ

第3章

自転車によるまちづくり施策

- 3-1 施策の基本方針
- 3-2 施策体系
- 3-3 益田市版SDGsと自転車施策との関わり
- 3-4 施策内容



3-1 施策の基本方針

将来像の実現に向けて、次の基本方針に基づき、自転車の活用を推進します。

基本方針1 自転車を快適に利用することができる“まち”の形成

「益田市自転車ネットワーク計画」に基づき、誰もが安全で快適に自転車を利用することができるよう、道路の状況や条件に応じた自転車通行空間の整備を推進します。

良好な道路環境、駐輪環境等の維持に努め、快適な「まち」の形成を目指します。

重点施策 ▶ 自転車通行空間の整備

基本方針2 自転車を活用した健康で心豊かなライフスタイルへの転換

自転車に乗る楽しさや活動的な暮らしが心身の健康増進に役立つメリットを広く情報発信するとともに、自転車に親しむ機会の創出や、日々の生活の中で継続して自転車を活用できる仕組みづくりを推進し、過度に自動車に依存しない暮らし方への意識変革を図り、市民の自発的な自転車の活用による健康的なライフスタイルへの移行を促進します。

重点施策 ▶ 自転車に親しむ機会の創出

基本方針3 交通ルールの遵守・他者への配慮による安全で安心なまちづくり

子どもの自転車利用の実態に応じた自転車安全教育の機会の提供や、より多くの市民に教育機会を広げる取組の推進により、自転車乗用時の交通ルールの徹底を図り、自転車利用者・歩行者の安全・安心を確保します。

また、自動車運転者に対しても、自転車が車道を安心して通行できるよう、自転車に配慮した運転の意識啓発を行い、道路を利用する全ての人が、他者に思いやりのある行動ができるような環境を醸成します。

重点施策 ▶ 子どもに重点を置いた交通安全教育の推進
▶ 多様な媒体を活用した情報発信による交通ルール等の周知・啓発

基本方針4 来訪者が自転車で地域を楽しみ・市民と交流できる魅力ある観光地域づくり

豊かな地域資源や良好なサイクリング環境を最大限に活用し、サイクリストをはじめ、益田市を訪れる来訪者が自転車を通じて、地域を巡りながら、市民と交流し、楽しむことができる観光の魅力創出や受入れ環境の整備を推進し、誘客による地域の活性化を目指します。

また、効果的な誘客プロモーションやリピーター獲得、受入れ環境整備等の検討のため、サイクリストやレンタサイクル利用者などに対する意識把握を行います。

重点施策 ▶ サイクリスト誘客PR活動の推進
▶ 旅行者の受け入れ体制の充実

3-2 施策体系

本市の自転車によるまちづくりの施策として次の取組を行います。

施策		重点 施策	重点施策の取組内容
1	自転車通行空間の整備	○	・自転車ネットワーク計画に基づく自転車通行空間の整備
2	自転車を利用しやすい環境の整備		—
3	自転車に親しむ機会の創出	○	・多様なイベントとの連携・併催による自転車に親しむ機会の創出 ・自転車活用推進事業補助金の見直しの検討 ・レンタサイクルに対する市民割引の適用
4	自転車の楽しみ方、健康増進効果等の情報発信		—
5	新たなサイクリングコースの利活用・維持管理等の推進		—
6	サイクルスポーツの振興		—
7	自転車通勤の促進		—
8	子どもに重点を置いた交通安全教育の推進	○	・小中学校での自転車交通安全教育の実施
9	多様な媒体を活用した情報発信による交通ルール等の周知・啓発	○	・事故発生箇所・ヒヤリハット情報のデジタル化 ・誰もが目にしやすい場所での自転車交通安全に関するポスターの掲示 ・SNS等を活用したプッシュ型による情報発信
10	自動車ドライバーに対する車道シェアの意識啓発		—
11	自転車保険加入やヘルメット着用、定期点検による安全利用の促進		—
12	サイクリスト誘客PR活動の推進	○	・首都圏・関西圏・近県他市等に対する誘客PR活動の推進 ・ホームページ・SNS等を活用した効果的な情報発信
13	旅行者の受け入れ体制の充実	○	・益田市サイクリストサポート企業の受け入れ体制の充実 ・レンタサイクルの利用促進・利用環境の充実 ・公共交通機関等との連携の検討 ・サイクリングコースの周知、必要に応じた整備
14	自転車で周遊したくなる・立ち寄りたくなる仕掛けづくりの推進		—
15	自転車を利用する来訪者の属性、ニーズ、周遊動向等の調査・把握		—

3-3 益田市版SDGsと自転車施策との関わり

益田市版 SDGsと本市の自転車によるまちづくりの施策との関わりについて次に整理します。

益田市版 SDGs と自転車施策の関わり

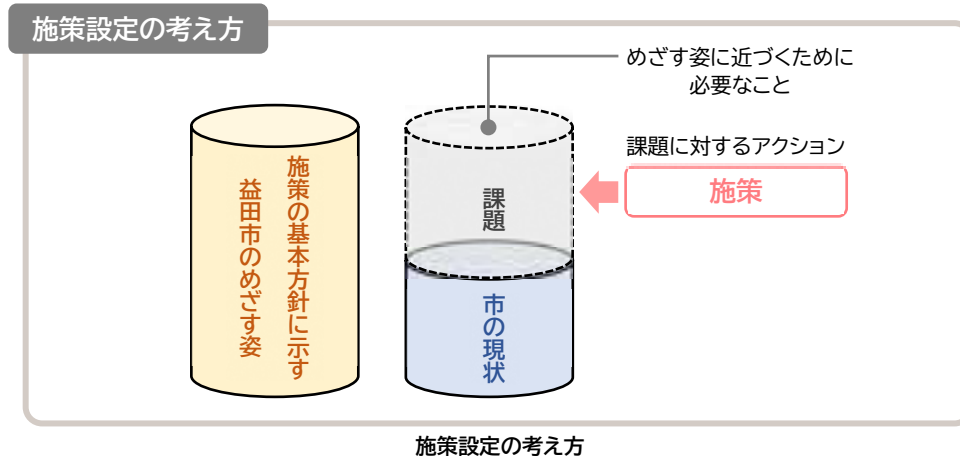
益田市版 SDGs	取組の目標	益田市版 SDGs と自転車施策との関わり
 ①地域共生社会を実現しよう 一人ひとりが抱える問題に寄り添い、市民みんなで地域共生社会を実現するまち	子ども、高齢者、障がい者などが誰も置き去りにされず、みんなで支えあって生活ができる社会	—
 ②地産地消でより豊かな生活を 地産地消により、生活の質が向上するまち	益田で採れた地のものを益田で消費し、また必要な人に行き渡るようにして、生活を豊かにする	—
 ③心身の健康と安心できる生活をみんなに 生涯を通じて心身ともに健康で、子どもから高齢者まで安心して生活ができるまち	日々の健康づくりと、必要な医療を受けられる環境づくりをし、散歩やサイクリングを楽しむことができる	・健康の保持増進 ・自転車関連事故の軽減
 ④子どもも大人も一緒に成長しよう 地域の中で子どもたちの「生きる力」を育み、大人も一緒に成長でできるまち	学校の中だけでなく、地域に出て活動をし、大人も子どもも成長ができる	・自転車に関する各種情報提供・発信 ・交通安全教育の実施
 ⑤「自分らしく」を尊重しよう 性差に関わらず、誰もが自分らしく生活できるまち	市民一人ひとりがお互いの「自分らしさ」を認め合う	—
 ⑥豊かな水辺環境を守ろう 高津川を始めとした美しい水辺環境がいつまでも残るまち	高津川に代表される、豊かで美しい水辺環境が維持される	・高津川沿線の良好な環境の保全と利用
 ⑦自然を活かしたエネルギーでクリーンなまちに バイオマスなどの自然を活かしたエネルギーが供給できるまち	豊かな自然環境を活かし、自然エネルギーが供給されているクリーンなまち	—
 ⑧「このまちで働きたい」をかなえよう 地域を支える産業が安定して営まれ、「このまちで働きたい」をかなえるまち	やりがいを持って仕事に取り組み、その姿を見て将来地元で働きたいと思える、希望が叶えられる	—
 ⑨時代に適応した産業・通信基盤をつくろう 先端技術を活用し、新たな時代に適応できる産業基盤や通信基盤が整備されたまち	地域課題解決のため、重要となる先端技術を活用し、その基礎となる産業基盤や通信基盤が整備されている	・デジタル化の推進

益田市版 SDGs と自転車施策の関わり

益田市版 SDGs	取組の目標	益田市版 SDGs と 自転車施策との関わり
	⑩平等なまちを実現しよう 互いの人権を尊重し、誰もが暮らしやすい社会が実現するまち	市民みんなが平等にお互いの人権を尊重し合うまち
	⑪魅力ある地域の暮らしをいつまでも 地域の魅力を活かし、安心して住み続けられるまち	・自転車通行環境の整備 ・自転車を利用しやすい環境の整備 ・地元企業・団体との連携 ・新たな事業の創出
	⑫資源ロスの少ないまちに 限りある資源を有効に活用した、ロスの少ないまち	・自転車利用による環境負荷の低減
	⑬自然災害に強くしなやかなまちに 平時から自然災害に備え、災害が起こっても強くしなやかに対応できるまち	災害に対して強くしなやかに対応し、まちなみや景観が次の世代に受け継がれる
	⑭豊かな日本海を守ろう 美しい日本海と、その恵みを活かした水産業が受け継がれるまち	砂浜と日本海的美しさを守り、海の恵みを生かした水産業を受け継ぎ、「海の豊かさ」を守る
	⑮豊かな森林と美しい田畑を守ろう 豊かな森林・美しい田畑の景観と、その恵みを活かした農林業が受け継がれるまち	森林と、田畑の美しい景観を維持する為に農林業を受け継ぎ、恵みを活かし「陸の豊かさ」を守る
	⑯公平・公正と安心・安全をみんなに 公平・公正で開かれた行政運営のもと、誰もが安心・安全を感じられるまち	行政などの公共機関が市民に対して説明責任を果たし、また市民の活動を支援し、市民の安心安全を守り、大切にする
	⑰協働で目標や課題に取り組もう 市民みんなの協働により、あらゆる目標や課題に取り組むまち	・市民協働 ・関係機関との連携

3-4 施策内容

本計画では、施策の基本方針に基づき設定した「本市のめざす姿」と「現状」を照らして、「めざす姿に近づくために必要なこと(課題)」に対するアクションとして「施策」を設定しました。



施策設定の考え方

具体的な施策の内容については、次のように整理し、設定します。



施策の整理内容・構成

(1)都市環境に関する施策

基本方針1 自転車を快適に利用することができる“まち”の形成

対応する益田市版SDGs



益田市がめざす姿

- ① 安全・安心、快適な自転車通行空間が整備されている
- ② 道路の維持管理が適切に行われ、道路の視認性・安全性・景観性等が確保されている
- ③ 駐輪施設に関する適正な設置及び周知啓発が行われ、まちに放置自転車等がない

取組指標(定量的な評価指標)	実績値(R6)	目標値(R11)
優先的計画策定エリア内の市道の整備延長	1.45Km(12.4%) ※R6 年.3 月末時点	11.3Km (100%)
益田市自転車ネットワーク路線整備推進部会の実施	1回/年	5回 (累計値)
最終目標	実績値(R6)	目標値(R11)
優先的計画策定エリアにおける自転車通行空間の整備延長(国道・県道・市道)	1.45km(5.7%) ※R6 年.3 月末時点	25.4km (100%)

—〔 益田市の現状と課題 〕—

現 状

自転車通行空間の整備

- 令和2年～令和5年までの4年間における自転車関連事故の発生件数は、平均8.5件/年となっており、市街地の無信号交差点で多く発生しています。
- 令和5年5月に「益田市自転車ネットワーク計画」を策定し、「誰もが安全・快適に利用できる道路空間の創出」を図るものとしています。

自転車の利用環境

- 市民協働による道路の除草を毎年度実施し、良好な道路環境の維持に努めています。
- 益田市立駐車場における駐輪場の利用方法や「益田市自転車の放置防止に関する条例」に基づく自転車放置禁止区域について周知を行っています。

課題(めざす姿に近づくために必要なこと)

自転車通行空間の整備

- 「益田市自転車ネットワーク計画」に基づく、道路管理者(市・県・国)、交通管理者(警察)の連携による計画的かつ着実な自転車通行空間の整備の推進。

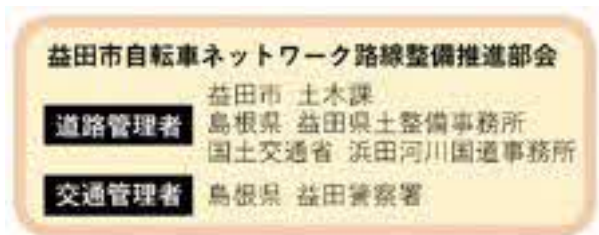
自転車の利用環境

- 良好な都市環境の維持に向けた、今後も継続した道路の除草活動の推進や、良好な駐輪環境の維持、市民への周知・啓発の実施。

施策	重点	新規	益田市版 SDGs
1	自転車通行空間の整備		

自転車ネットワーク計画に基づく自転車通行空間の整備

- 「益田市自転車ネットワーク計画」に基づき、道路管理者（市・県・国）及び交通管理者（警察）で構成される「益田市自転車ネットワーク路線整備推進部会」における具体的な整備の方針・スケジュール等の決定、進捗共有を図り、関係機関の連携を図りながら、自転車通行空間の着実な整備を推進します。



自転車ネットワーク路線の推進体制

出典：益田市自転車ネットワーク計画（令和 5 年 5 月）

所管課	土木課
-----	-----

施策	継続	益田市版 SDGs
2	自転車を利用しやすい環境の整備	

- 市民との協働によるボランティア活動等を通じた道路の除草や環境美化活動を継続し、自転車を利用しやすい良好な道路環境を維持するとともに、環境美化活動を推進し、市民意識の定着を図ります。
- 公営駐輪施設の利用促進に関する情報発信や、はじめて駐輪場を使う方にもわかりやすい利用案内の掲示等により、良好な駐輪環境を維持します。また、自転車の正しい廃棄方法等や迷惑駐輪防止に関する情報発信を行うことで、放置自転車、不正駐輪等の発生を予防する意識啓発を行います。



市民との協働による清掃ボランティア活動

出典：益田市



市営駐輪場利用案内看板

出典：益田市

所管課	土木課/都市整備課/環境衛生課
-----	-----------------



都市環境

これまでは...



これからは...

自転車が車道を安全・安心
快適に走れるように！



(2)健康増進に関する施策

基本方針2 自転車を活用した健康で心豊かなライフスタイルへの転換

対応する益田市版SDGs



益田市がめざす姿

- ① 市民が自転車利用をはじめるきっかけづくりとして、自転車の楽しさを知る機会や体験する機会等が多様なところで提供されている
- ② 誰もが利用しやすく走りやすいサイクリングコースが整備されている
- ③ 市民が自転車で余暇を楽しみながら健康増進が図られている
- ④ サイクルスポーツが身近にあり、市民が自転車競技に慣れ親しんでいる
- ⑤ 一人でも多くの市民が自転車の楽しさやメリットを知り、自転車を取り入れたライフスタイルへの転換が図られている

取組指標(定量的な評価指標)	実績値(R6)	目標値(R11)
市民が気軽に参加できる自転車関連イベントの開催支援	6 件/年 開催	▶ 12 件/年 開催
他のイベントとの併催(ブース設置)	—	▶ 5回(累計値)
市民のレンタサイクルの利用件数	(未計測)	▶ 180 件/年

最終目標	実績値(R6)	目標値(R11)
(市民アンケート調査:自転車の利用頻度) 月1回以上自転車を利用している市民の割合	15%	▶ 20%

—〔 益田市の現状と課題 〕—

現 状

市民向けの自転車イベントの開催

- 民間団体等による自転車に親しむ機会の創出を支援する「自転車活用推進事業補助金」を創設し、令和5年度の活用実績は6件となっています。

益田市高津川かわまちづくり計画の登録・推進

- 「益田市高津川かわまちづくり計画」の登録を契機に、新たな市民レクリエーションの場として、サイクリングコース整備等による自転車活用に向けた機運が高まっています。

市民の多様な目的での自転車の利用

- 本市では自家用車への依存度が高い傾向にあります。マイカー利用者等に対する自転車通勤を促す取組として、市役所職員に向けて毎月「8」の付く日に「積極的な自転車活用の日(マイサイクルデー)」を導入し、自転車通勤の実施モデルを展開しています。
- 市民の自転車の利用目的について、「趣味・レジャー」、「健康づくり」等、余暇を始めとした自転車の利用目的の割合は微増傾向となっています。

サイクルスポーツ普及に向けた取組

- 2030年の国民スポーツ大会を契機に、益田チャリキッズ育成プロジェクト(ロードレース人材の育成)を始動し、サイクルスポーツの普及に向けた取組を行っています。

課題(めざす姿に近づくために必要なこと)

市民向けの自転車イベントの開催

- 民間団体等による自転車利用の機会創出の活発化に向けて「自転車活用推進事業補助金」の要件等のブラッシュアップや制度の周知。
- 自転車に関心が薄い市民が参加できるような多様な機会の創出。

益田市高津川かわまちづくり計画の登録・推進

- 市民の健康増進に寄与するサイクリングコースの運用に向けた、利活用・維持管理の検討。

市民の多様な目的での自転車の利用

- 自転車を利用しない市民にも興味関心を持っていただけるような活用提案や情報発信等の意識変容を促す取組の推進。
- 通勤時の自転車利用を市役所職員の取組だけではなく、市民・民間企業に対しても広げるなど、まちぐるみで自転車利用の意識定着を図る取組の推進。

サイクルスポーツ普及に向けた取組

- スポーツ振興等含め、市民が健康増進に取り組む多様なきっかけづくり。

施策	重点	拡充	益田市版 SDGs
3	自転車に親しむ機会の創出		

多様なイベントとの連携・併催による自転車に親しむ機会の創出

- これまでの市民向け自転車イベントに加え、子育て世代を対象としたイベントや食のイベント等、自転車とは関係ない市民イベントとの併催・連携を検討し、自転車を目的としていない層へのPRを行うとともに、より多くの市民に向けて自転車の楽しさを知る機会・体験する機会を提供します。

3箇所で開催されるマルシェ会場を自転車で巡ることで、ビンゴ大会の参加券を獲得



市民向けイベントと自転車体験の併催例（岡山県真庭市事例 令和4年）

出典：岡山県真庭市

所管課	観光交流課
-----	-------

自転車活用推進事業補助金の見直し検討・窓口支援の充実化

- 企業・団体主催の自転車イベント等の取組の活発化に向けて、「自転車活用推進事業補助金」について、柔軟な活用に向けた制度要件等の見直しを検討するとともに、当該補助金制度の周知や自転車イベント開催に向けた相談、関連企業・団体等のマッチング、紹介などの窓口支援を実施します。

所管課	観光交流課
-----	-------

レンタサイクルに対する市民割引の適用

- 市民のレンタサイクルの利活用を促進するため、レンタサイクルの市民割引を実施します。

所管課	観光交流課
-----	-------

施策

4

新規

自転車の楽しみ方、健康増進効果等の情報発信

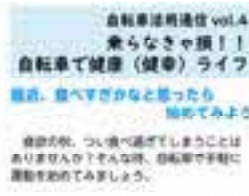
益田市版 SDGs



- 市報等を活用し、「自転車×ストレス解消」等の付加価値の例示など、普段自転車を利用していない市民にも興味や関心を持っていただけるような情報発信を行います。
- 運動全般に関する普及啓発活動に併せて、自転車による心身の健康増進効果等を紹介します。



自転車はウォーキングやランニングと同様に、一定時間・一定距離をこぎ続けることで有酸素運動になります。ロードバイクやマウンテンバイクなど本格的なスポーツ自転車を持てる方も多いと思いますが、一般的にママチャリと呼ばれる自転車でも有酸素運動の効果が期待できます。



所管課

健康増進課

市報を用いた情報発信の例(鳥取県大山町事例 令和5年)

出典:鳥取県大山町

施策

5

新規

新たなサイクリングコースの利活用・維持管理等の推進

益田市版 SDGs



- 「益田市高津川かわまちづくり計画」に基づく「自転車における健康増進」、「拠点における賑わい創出」に資する取組として、サイクリングコースを活用したイベントの開催、日常的な利用を促す仕掛けづくりを検討します。また、高津川を周遊できるサイクリングコース上に案内サインを設置します。
- 「益田市高津川かわまちづくり利活用・維持管理推進協議会」において、維持管理・安全管理等、運営管理方法を検討します。



益田市高津川かわまちづくり計画

出典:国土交通省

所管課

観光交流課

施策	新規	益田市版 SDGs
6	サイクルスポーツの振興	

- 2030 年の国民スポーツ大会を契機として、関係団体等による自転車競技(ロードレース)人口拡大に関する取組を支援し、サイクルスポーツの振興を図るとともに市民のスポーツ振興の裾野を広げます。



所管課	協働のひとづくり推進課
-----	-------------

益田チャリキップス育成プロジェクト 活動の様子
出典:益田市スポーツ協会

施策	拡充	益田市版 SDGs
7	自転車通勤の促進	   

- 毎月「8」の付く日を「積極的な自転車活用の日(マイサイクルデー)」として、市民・民間企業に対して広く周知し、自転車通勤の促進を図ります。
- 自転車通勤制度を導入することによるメリットや自転車通勤制度の導入時の留意点などの情報提供を行い、自転車通勤制度の導入について支援します。
- 自転車利用のメリットを市民に広く周知するため、行政職員による自転車通勤モデルを展開します。



自転車通勤導入に関する手引き
出典:自転車活用推進官民連携協議会

所管課	人事課/観光交流課
-----	-----------

健康増進

これまでは...

子どもの頃は
自転車に乗ってたけど
大人になったらクルマが便利で
自転車は使わなくな
ったなあ...



これからは...

普段自転車に乗らない人にも
自転車ならではの楽しさや魅力を知ってもらえる、
体験できる機会がたくさん！



マルシェイベントに
自転車体験もあるんだ
楽しそう♪

また自転車に
乗って
みようかな〜♪

施策 3 自転車に親しむ機会の創出 重点施策

施策 4 自転車の楽しみ方、健康増進効果等の情報発信

(3)安全・安心に関する施策

基本方針 3 交通ルールへの遵守・他者への配慮による安全で安心なまちづくり

対応する益田市版SDGs



益田市がめざす姿

- ① 自転車をはじめとする道路利用者が交通ルールを遵守している
- ② 市民が自転車事故発生箇所やヒヤリハットが多い場所を把握し、注意している
- ③ 自動車・自転車が相互に思いやりを持ち、車道をシェアしている
- ④ 自転車事故に備えて、自転車保険の加入やヘルメットが着用されている
- ⑤ 自転車の日常点検や定期的な整備が適切に行われている

取組指標(定量的な評価指標)	実績値(R6)	目標値(R11)
市街地の小学校4校における高学年を対象とした交通安全教育の実施	1校/4校で実施 (年間値)	4校/4校で実施 (年間値)
デジタルマップの構築・運用	—	構築・運用

最終目標	実績値(R6)	目標値(R11)
自転車関連事故件数(前年の事故件数で評価)	6件/年 ※R5年.12月末時点	0件/年 ※R10年.12月末時点

—〔 益田市の現状と課題 〕—

現 状

自転車安全利用五則の認知度と遵守

- 自転車安全利用五則の認知度は市民・高校生とも8割以上と高い一方、交通ルールの遵守状況は市民で2割に留まる等、安全行動の実践に繋がっていない状況です。
- 自転車利用者の「危険な行動」は、市民・高校生とも「増えた」が「減った」を上回っています。

自転車関連事故・ヒヤリハット

- 自転車関連事故は平均 8.5 件/年発生しており、特に市街地に集中しています。事故の当事者は高校生以下の子どもの割合が最も高く、その割合は増加傾向にあります。
- 自転車利用者の約 7 割がヒヤリハットを経験しており、「歩道」よりも「車道」での割合が高くなっています。

自転車交通安全教室等の取組

- 市街地の小学校では、自転車での行動圏域がより広がる高学年(4～6 年生)に対して、自転車交通安全教室を受ける機会が少ない状況となっています。
- 市民全般は、依頼に応じた個別対応であり、広く周知・啓発ができていない状況です。

自転車事故への備え・自転車の安全利用

- 自転車損害賠償責任保険の加入状況は、市民・高校生とも約4割に留まっています。
- ヘルメット着用は市民が約 3 割、高校生は 1 割未満と低い状況です。また、購入店等における自転車の定期点検の状況は、市民で約3割に留まっています。

課題(めざす姿に近づくために必要なこと)

自転車安全利用五則の認知度と遵守

- 自転車安全利用五則の認知度を高める周知・啓発から、自分と他者の安全を守るための行動変容を促す周知・啓発への転換。

自転車交通安全教室等の取組

- 学校での自転車交通安全教育における、対象学年など、自転車利用の実態に応じた教育機会の提供。また、家庭での教育機会を増やすなど、子どもに対する教育機会の充実。
- より多くの市民に対して、自転車安全教育の機会を広げる取組の推進。

自転車と自動車の車道シェア

- 自動車運転者への、自転車との車道シェアの意識をより高める啓発の推進。

自転車事故への備え・自転車の安全利用

- 自転車販売店や学校等との連携による、自転車損害賠償責任保険への加入促進、ヘルメット着用、自転車点検等の周知・啓発。

施策

8

重点

拡充

子どもに重点を置いた交通安全教育の推進

益田市版 SDGs



小中学校での自転車交通安全教育の充実

- 現在、各小中学校で実施している交通安全教室を継続するとともに、特に、自転車関連事故やヒヤリハットが多い市街地の小学校については、自転車の利用実態に応じ、高学年（4～6年生）に対する教育の機会を確保します。

小学校における交通安全教室の開催状況
(R5 実績)

小学校	対象学年						卒業までに受講できる回数
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
益田	○		○				2
高津	○	○	○	○	○	○	6
吉田	○		○				2
吉田南	○	○					2
安田	○		○	○			3
鎌手	○	○	○	○	○	○	6
真砂	○	○	○	○	○	○	6
豊川	○	○	○	○	○	○	6
西益田	○	○	○				3
桂平	○	○	○	○	○	○	6
戸田	○	○	○	○	○	○	6
中西	○	○	○	○	○	○	6
南仙道	○	○	○	○	○	○	6
都茂	○	○	○	○			4
匹見	○	○	○	○	○	○	6
合計	15	12	14	11	9	9	70
平均	1.0	0.8	0.9	0.7	0.6	0.6	4.7

自転車関連事故・ヒヤリハットが集中している地区（市街地）

ひとりで自転車を利用する機会が増える高学年に対して、交通安全教育の機会を確保



学校教育による交通安全教室

出典：島根県警察

所管課

学校教育課

未就学児・保護者に対する自転車交通安全教育の充実

- 保育園、幼稚園等の入口などに、自転車の交通安全に関するポスター等を掲示し、送迎などの親子揃って啓発できる場面を活用した、自転車交通安全の周知・啓発を行います。
- 健診時などの機会を活用して、チラシ・リーフレット等の配布や情報提供を行い、自転車の交通ルールやヘルメット着用、自転車保険加入の必要性、保護者の見守りなど、将来自転車を利用する子どもとその保護者に対して、自転車交通安全教育を充実させます。

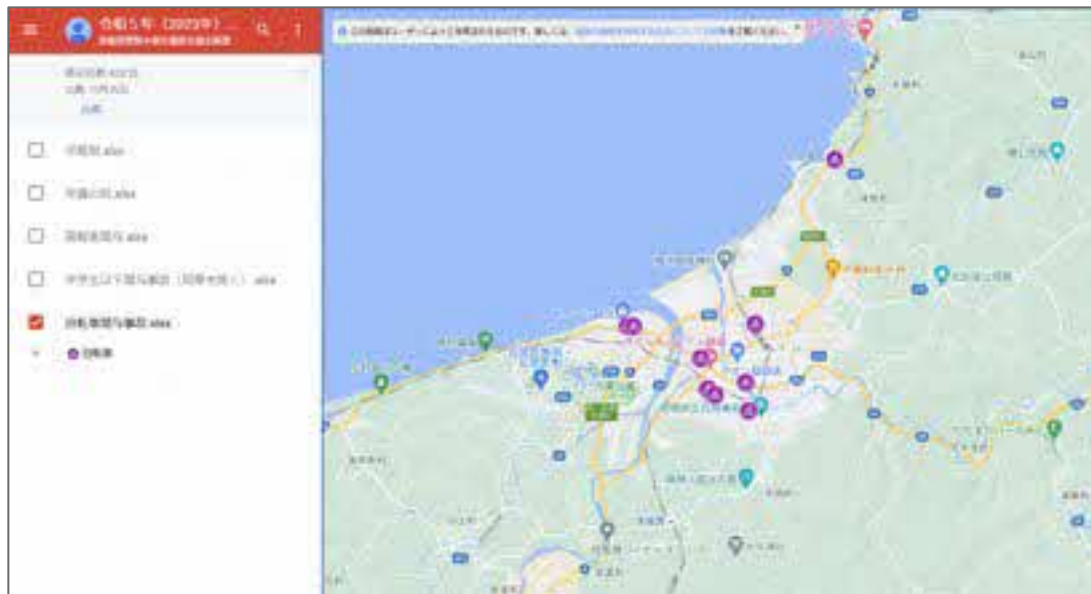
所管課

子ども家庭支援課、子ども福祉課

施策	重点	拡充	益田市版 SDGs
9	多様な媒体を活用した情報発信による交通ルール等の周知・啓発		

事故発生箇所・ヒヤリハット情報のデジタル化

- 本市の自転車関連事故の発生箇所やヒヤリハットの特徴について、情報のデジタル化を推進し、誰もが容易に情報共有でき、市民が危険箇所を把握・注意できる環境を整備します。



自転車関連事故に関するデジタルマップの例（交通事故発生マップ 令和5年）

出典：島根県交通事故オープンデータ（島根県警察本部）

所管課	危機管理課
-----	-------

誰もが目にしやすい場所での自転車交通安全に関するポスターの掲示

- 市民が日常利用するスーパーやコンビニ・郵便局や、高齢者の利用が多い施設など、誰もが目にしやすい場所・施設において自転車の交通安全に関する情報を掲示することで、より多くの市民に対して周知・啓発を行います。

所管課	危機管理課
-----	-------

SNS 等を活用したプッシュ型による情報発信

- 益田市公式 LINE など、本市の SNS 等を活用し、プッシュ型による情報発信を充実させます。

所管課	危機管理課
-----	-------

施策

10

自動車ドライバーに対する車道シェアの意識啓発

継続

益田市版 SDGs



- 自動車ドライバーに対して、自動車学校へのチラシ配布、市内の免許更新施設でのポスター掲示等により、自転車の交通安全教育を併せて実施し、自転車も車道をシェアする存在であることの認識を高める意識啓発を行います。
- 春・秋の全国交通安全運動全国の機会を活用し、自動車ドライバーに対して車道シェアの意識啓発を行う等、警察や交通事業者と連携を強化します。



SHARE THE ROAD 運動チラシ
出典：神奈川県横浜市



ドライバー向け啓発チラシの例



出典：東京都大田区

所管課

危機管理課

施策

11

自転車保険加入やヘルメット着用、定期点検による安全利用の促進

継続

益田市版 SDGs



- 自転車の保険加入やヘルメット着用、定期点検を促進していくため、自転車販売店や警察、学校との連携により、自転車販売時の呼びかけや学校での自転車交通安全教育の機会等を活用した啓発を充実させます。

所管課

危機管理課

これからの益田市どう変わる？

安全・安心

これまでは...

乗り方は
教えてあげられるけど
正しい交通ルールまで
きちんと教えられるかなあ...

交通ルールを守らない
自転車がいって危ないなあ。
大人にも自転車の
交通ルールを学ぶ機会が
もっとあればいいのに...

子どもが事故に
あわないか心配だなあ。
危険な場所が
分かんるといいのに...

これからは...

子育てや子供の成長に合わせた
自転車交通安全教育の支援を充実！ヒヤリハットや
事故の場所もスマホで手軽に確認できる！

子どもに
きちんと交通ルール
を教えられる！

一人で乗ることが
多くなってきたから
気を付けよう！

危険な場所も
すぐ分かる
皆で共有できる！

街の色々な場所で
自転車の交通ルール等を
学ぶ機会がたくさん！

街に
自転車の
情報が増えたなあ



施策 8 子どもに重点を置いた交通安全教育の推進 | 重点施策

施策 9 多様な媒体を活用した情報発信による交通ルール等の周知・啓発 | 重点施策

(4)観光地域づくりに関する施策

基本方針 4

来訪者が自転車で地域を楽しみ・市民と交流できる魅力ある観光地域づくり

対応する益田市版 SDGs



益田市がめざす姿

- ① サイクルツーリズムの適地として認知され、多くのサイクリストが来訪している
- ② 自転車の利用環境やサイクルツーリズムの受け入れ体制が充実している
- ③ サイクリストや旅行者に自転車で益田を楽しめる提案や環境を提供できている
- ④ 魅力ある観光地域として、訪れた方がリピーターとなっている

取組指標(定量的な評価指標)	実績値(R6)	目標値(R11)
首都圏・関西圏・近県他市等に対する誘客 PR 活動の推進	2 回/年	▶ 10 回(累計値)
ホームページ、SNS 等を活用した効果的な情報発信	必要に応じて 情報発信	▶ 市 HP 上への 特設サイトの設置
益田市サイクリストサポート企業に係る プッシュ型の依頼の実施回数	—	▶ 4 回/年 (5 年平均)

最終目標	実績値(R6)	目標値(R11)
市外来訪者のレンタサイクル利用件数	567 件/年 ※R6.3 月末時点	▶ 900 件/年

—〔 益田市の現状と課題 〕—

現 状

誘客ターゲット・PR 活動

- 萩・石見空港の利用促進の観点や市場の大きさから、首都圏、関西圏を誘客ターゲットとし、国内最大級の自転車展示会への出展を中心とした PR 活動を推進しています。

自転車の利用環境・受入れ環境の状況

- 「益田市サイクリストサポート企業」の登録数は令和 5 年 12 月現在で 112 企業となっていますが、登録企業の約 6 割は市街地に集中しています。
- 空港や鉄道での自転車の輸利用者は少ない状況となっています。
- レンタサイクルの利用状況は、シティタイプの「電動アシスト自転車」の利用が多く、利用台数はコロナ前(令和元年)の水準を上回り、その需要は拡大傾向にあります。

旅行者数の推移

- 令和 5 年の観光宿泊客延べ数は約 22.4 万人であり、コロナ前(令和元年)の水準(19.1 万人)を超えています。

サイクリスト・レンタサイクル利用者の意識把握の状況

- 本市を訪れているサイクリストやレンタサイクルを利用された旅行者についての満足度や周遊動向等を把握する機会が現在はない状況となっています。

課題(めざす姿に近づくために必要なこと)

誘客ターゲット・PR 活動

- より多くのサイクリストを誘客するため、市場性の高い首都圏、関西圏に加え、近県他市といったアクセス性の視点や年代・性別・趣味嗜好といった属性などの視点を踏まえたコアターゲットの設定。

自転車の利用環境・受入れ環境の状況

- 「益田市サイクリストサポート企業」に対する、利用者側の「あると嬉しい」、「あると楽しい」の視点から、利用者にとって利用しやすい・利用したい環境の創出。
- サイクリストや旅行者のそれぞれの目的の違いやニーズに対応した受入れ環境の充実。
- 手軽な市内周遊を促進するツールとして、「レンタサイクル」の利活用の充実。

旅行者数の推移

- 増加傾向にある宿泊旅行者の市内周遊・まちなかでの滞在時間延長を高める仕掛けづくり。

サイクリスト・レンタサイクル利用者の意識把握の状況

- 効果的な誘客プロモーションやリピーター獲得、受入れ環境整備の検討等のため、サイクリストや旅行者といった自転車利用者の周遊動向やニーズ把握。

施策	重点	拡充	益田市版 SDGs
12	サイクリスト誘客PR活動の推進		

首都圏・関西圏・近県他市等に対する誘客 PR 活動の推進

- サイクルツーリズムの適地として本市の知名度の向上を図るため、これまでの誘客ターゲットである首都圏、関西圏に加え、近県他市を対象とした誘客PR活動を推進します。
また、「日本遺産」、「雪舟回廊」等の国内外の観光客にとって魅力ある地域資源を活用し、インバウンドの誘致を図ります。

所管課	観光交流課
-----	-------

ホームページ・SNS等を活用した効果的な情報発信

- ホームページとともに、ターゲットに合わせた発信媒体(SNS)を活用し、効果的に本市の魅力を情報発信していき、認知度の向上を図ります。また、市民や市外在住の方も巻き込んだユーザー参加型の展開(ハッシュタグキャンペーン※²¹、オープンチャット※²²)等により、発信力を充実・強化します。

所管課	観光交流課
-----	-------

※²¹ ハッシュタグキャンペーン：特定のキーワードの強調やトピックを分類する際に使用するハッシュタグ(＃)をつけて SNS への投稿を促すキャンペーン。

※²² オープンチャット：匿名で不特定多数の人たちとチャットする機能。

施策	重点	拡充	益田市版 SDGs
13	旅行者の受け入れ体制の充実		  

益田市サイクリストサポート企業の受け入れ体制の充実

- 益田市サイクリストサポート企業について、商店や飲食店等の消費活動ができる企業を対象としたプッシュ型での協力促進を図るとともに、サイクリストが利用しやすい環境の創出や地元企業 PR の充実を図るため、連携を強化します。

所管課	観光交流課
-----	-------

レンタサイクルの利用促進・利用環境の充実

- レンタサイクルの利用促進に向けて、宿泊事業者・観光施設等との連携により、レンタサイクルの利用環境の充実やレンタサイクルを目にする機会を増やしていき、旅行者の誰もがレンタサイクルを手軽に利用できる環境を創出します。
- 自由で便利に自転車を活用できる環境を創出するため、シェアサイクル導入に向けた社会実験の実施など、その可能性について関係機関とともに検討を行います。



所管課	観光交流課
-----	-------

益田市レンタサイクルの例
出典：益田市観光協会

公共交通機関等との連携の検討

- サイクリストを始めとする自転車利用者の広域的な移動を支援するため、サイクルトレインの導入等、公共交通機関との連携を検討します。

所管課	観光交流課
-----	-------

サイクリングコースの周知、必要に応じた整備

- 必要に応じて、サイクリングコースを検討・周知する等、国内外のサイクリスト、観光客に良好なサイクルツーリズムの環境の創出を推進します。

所管課	観光交流課
-----	-------

施策

新規

益田市版 SDGs

14

自転車で周遊したくなる・立ち寄りたくなる仕掛けづくりの推進



- サイクリングコースと地域資源をより連携させていき、自転車により益田を堪能できる・より消費行動ができる仕掛けづくりを検討し、サイクリストや旅行者に対する益田旅の魅力化、情報発信を実施します。
- 企業・観光施設等との連携を図り、自転車を利用することで市内周遊に対する付加価値(インセンティブ)が生まれる仕組みを検討します。
- 市外来訪者が自転車でゆったりと楽しく市内を周遊でき、まちなかのスポット巡り等も楽しめる仕掛けづくりを検討します。



サイクリングやボタリングの機会に指定スポットを探してもらう工夫により、周遊を促進。
指定スポットを見つけた場合はハッシュタグをつけて SNS に写真をアップロードしてもらうことで、達成感ややりがい等を付与。

自転車で周遊したくなる・立ち寄りたくなる仕掛けづくりの例
(愛媛県伊予市事例)

出典:伊予市



レンタサイクル利用者に対する
割引クーポンキャンペーンの例
(高知県香南市事例 令和6年)

出典:香南市観光協会

所管課

観光交流課

施策

新規

益田市版 SDGs

15

自転車を利用する来訪者の属性、ニーズ、周遊動向等の調査・把握



- サイクリストやレンタサイクル利用者の属性、ニーズ、周遊動向等を調査し、誘客プロモーションやリピーター獲得、受入れ環境の改善等を検討するための基礎資料として活用します。

所管課

観光交流課

これからの益田市どう変わる？

観光地域づくり

これまでは...



仕事で益田市に来たけど
益田は何があるんだろう
空き時間で楽しめるところ
ないかなあ...

益田には見どころが
いっぱいあるし
もっとたくさんの人に来て
楽しんでもらいたいなあ...



これから...

自転車を地域交流の懸け橋として、
よりたくさんの人に
益田市をたっぷり楽しんでもらえるように！

益田って
こんなところあるんだ
手軽に回れて
楽しいな



旅行者の方が
来てくれるように
なってきたよ



施策 13 旅行者の受け入れ体制の充実 | 重点施策

施策 14 自転車で周遊したくなる・立ち寄りたくなる仕掛けづくりの推進

第4章

計画の進行管理

- 4－1 計画の進行管理
- 4－2 重点施策の進捗管理・定量評価
- 4－3 最終目標

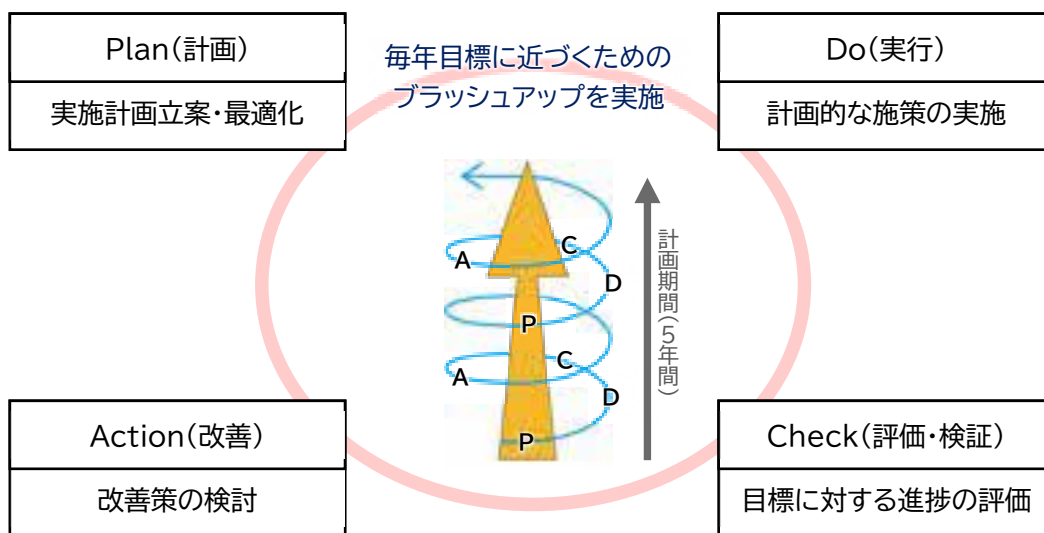


4-1 計画の進行管理

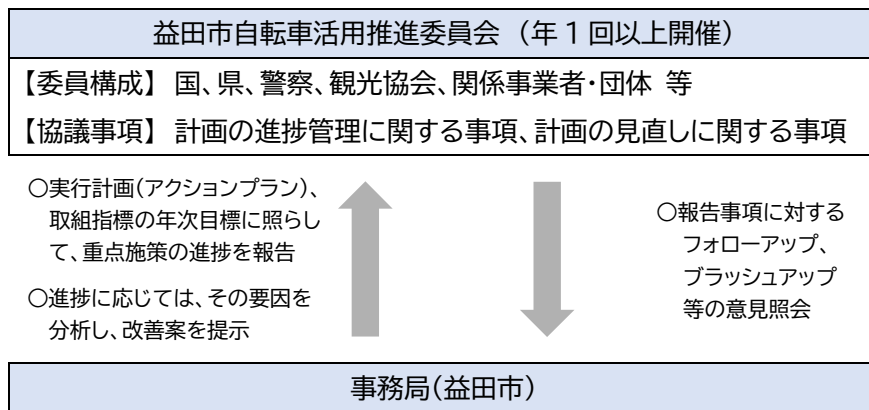
本計画の「将来像の実現」に向けては、計画に掲げた目標(Plan)の確実な達成のため、計画的に施策を実行していく(Do)とともに、取組結果を評価・検証(Chack)し、問題があればその要因を分析して見直し(Action)を行い、新たな取組の計画を立てる(Plan)、PDCA サイクルにより着実な事業の推進を図ります。

PDCA サイクルによる評価・検証にあたっては、本市のめざす姿の達成に対して貢献度が高く、課題解決に重要と考えられる施策である「重点施策」に対して、実行計画(アクションプラン)と取組指標(定量的な評価指標)を設定し、進捗管理と定量評価を行うものとします。

取組結果の評価・検証(Chack)、フォローアップは「益田市自転車活用推進委員会」が行います。当該委員会は年1回以上開催するものとします。



PDCAによるスパイラルアップのイメージ



益田市自転車活用推進委員会の開催

4-2 重点施策の進捗管理・定量評価

重点施策については、計画的な運用を図るため「実行計画(アクションプラン)」を設定するとともに、目標の達成状況を可視化するため取組指標(定量的な評価指標)を設定します。

「実行計画(アクションプラン)」に照らして、計画的に施策が実施されているか評価を行います。

また、「取組指標(定量的な評価指標)」の年度目標に対する達成状況から、進捗状況の定量的な評価、取組内容の評価を行います。

重点施策の実行計画(アクションプラン)及び取組指標(定量的な評価指標)

基本方針	重点施策	R7	R8	R9	R10	R11	R6年度実績値	年度目標 (年間値)	R11年度 目標値
基本方針1. 自転車を快適に 利用することができる “まち”の 形成	施策1. 自転車通行空間 の整備	自転車ネットワーク計画に基づく 自転車通行空間の整備 優先的計画策定エリア内の市道の整備延長 44% 58% 72% 86% 100%					1.45Km (12.4%) ※R6年3月末時点	1.61Km/年 (14%/年)	11.3Km (100%)
		「益田市自転車ネットワーク路線整備 推進部会」の推進 1回/年 開催					1回/年	1回/年	5回 (累計値)
基本方針2. 自転車を活用し た健康で心豊か なライフスタイル への転換	施策4. 自転車に親しむ 機会の創出	誰もが気軽に参加できる自転車関連 イベントの開催 12回/年 開催					6件/年 開催	12件/年 開催	12件/年 開催 (年間値)
		他のイベントとの併催(ブース設置) 1回/年 実施					—	1回/年	5回 (累計値)
		レンタサイクルに対する市民割引の 適用 市民のレンタサイクル利用件数 36件 72件 108件 144件 180件					(未計測)	前年度目標 から 36件増/年	180件/年 (年間値)
基本方針3. 交通ルールの遵 守・他者への配慮 による安全で安 心なまちづくり	施策8. 子どもに重点を 置いた交通安全 教育の推進	小中学校での自転車交通安全教育の 実施 市街地の小学校4校における高学年を 対象とした交通安全教育の実施					1校/4校で 実施 (年間値)	改善協議 の開催	4校/4校で 実施 (年間値)
	施策9. 多様な媒体を活 用した情報発信 による交通ルー ル等の周知・啓発	事故発生箇所・ヒヤリハット情報の デジタル化 デジタルマップの構築・運用					—	検討	構築・運用
基本方針4. 来訪者が自転車 で地域を楽しみ・ 市民と交流でき る魅力ある観光 地域づくり	施策12. サイクリスト誘 客PR活動の推 進	首都圏・関西圏・近県他市等に対する 誘客PR活動の推進 イベント出展回数 2回/年 出展					2回/年	2回/年	10回 (累計値)
		ホームページ・SNS等を活用した 効果的な情報発信					必要に応じ て情報発信	情報発信の 継続	市HP上へ の特設サイト の設置
	施策13. 旅行者の受け入 れ体制の充実	益田市サイクリストサポート企業の 受け入れ体制の充実 益田市サイクリストサポート企業に係る ブッシュ型の依頼の実施回数 4回/年 実施					—	4回/年	4回/年 (5年平均)

4-3 最終目標

本市の将来像を目指すために、次の目標を掲げます。

最終目標

基本方針	指 標	令和 6 年度 実績値	令和 11 年度 目標値
基本方針1 自転車を利用することができる“まち”の形成	優先的計画策定エリアにおける自転車通行空間の整備延長（国道・県道・市道）	1.45Km (5.7%) ※R6 年.3 月末時点	25.4km (100%)
基本方針2 自転車を活用した健康で心豊かなライフスタイルへの転換	（市民アンケート調査： 自転車の利用頻度） 月 1 回以上自転車を利用している市民の割合	15%	20%
基本方針3 交通ルールの遵守・他者への配慮による安全で安心なまちづくり	自転車関連事故件数 （前年の事故件数で評価）	6件/年 ※R5 年.12 月末時点	0件/年 ※R10 年.12 月末時点
基本方針4 来訪者が自転車で地域を楽しみ・市民と交流できる魅力ある観光地域づくり	市外来訪者のレンタサイクル利用件数	567 件/年 ※R6 年.3 月末時点	900 件/年

第5章

卷末資料

5－1 用語集

5－2 策定経過

5－3 益田市自転車活用推進委員会名簿



5-1 用語集

No	用 語	解 説
1	ポタリング	散歩のように、特に目的地を定めず気分や体調に合わせて周辺を自転車で巡ること。
2	アクセシビリティ	利用のしやすさ、都市生活における利便性。
3	サイクルツーリズム	自転車を活用した観光の総称。
4	かわまちづくり計画	河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す「かわまちづくり」の実現に向けて、国土交通省の支援制度に登録するため、市町村等の推進主体が作成する計画。
5	自転車ネットワーク計画	安全で快適な自転車通行空間を効果的、効率的に整備することを目的に、自転車ネットワーク路線を選定し、その路線の整備形態等を示した計画。
6	PDCA サイクル	事業活動におけるマネジメント手法の一つであり、「計画(Plan)」、「実施(Do)」、「確認(Check)」、「改善(Action)」という業務の一連の流れについて順次実行し、継続的な改善を図る仕組み。
7	アクションプラン	設定した目標を達成するために必要な具体的な行動や手順、期日(スケジュール)等を示した計画。
8	自転車通行空間	自転車が通行するための道路、又は道路の部分。
9	SDGs	Sustainable Development Goals の略称。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。
10	100ZEROのまち	本市の「100km走っても信号で止まる回数がZERO」のサイクリングコースに由来する標語。
11	コンパクト・プラス・ネットワーク	生活サービス機能と居住の誘導と、まちづくりと連携した公共交通ネットワークの形成により、都市の持続可能性の確保を目指す考え方。
12	サイクルアンドバスライド	自宅などの出発地点から自転車で最寄のバス停まで行き、バス停付近の自転車駐輪場に駐輪し、バスに乗り換えて目的地に向かうこと。
13	サイクルトレイン	自転車を解体せずに鉄道車両内に持ち込めるサービス。
14	輪行	公共交通機関(鉄道、飛行機など)を利用して自転車を分解して運ぶこと。
15	アクティビティ	特定の目的や楽しみを追求するために行う行動や事柄。(余暇、旅行先での)遊び、体験活動など。
16	ロードレース(自転車競技)	舗装された道路を自転車で走り、ゴールの順番や所要時間を争う競技。
17	ヒヤリハット	「ヒヤリ」としたり「ハッ」としたりする危険な状況が起こったが、事故や災害には至らなかった事象。
18	日本遺産	「地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリー」を「日本遺産(Japan Heritage)」として文化庁が認定するもの。

No	用 語	解 説
19	ガーデンツーリズム	各地域の複数の庭園の連携により、魅力的な体験や交流を創出する国土交通省の取組。 庭園間交流連携促進計画登録制度⇒[通称]ガーデンツーリズム登録制度
20	ファンライド	地域の景観やコース、地元地域との交流を楽しみながら走る自転車イベント。
21	ハッシュタグキャンペーン	特定のキーワードの強調やトピックを分類する際に使用するハッシュタグ(＃)をつけてSNSへの投稿を促すキャンペーン。
22	オープンチャット	匿名で不特定多数の人たちとチャットする機能。

5-2 策定経過

期 日	内 容	
令和6年 7月4日	第1回 益田市自転車 活用推進委員会	議事 1) 計画改定の主旨・計画改定スケジュール 議事 2) 自転車に関するこれまでの動向 議事 3) 計画改定における基本的な考え方
令和6年 7月～9月	市民意識調査 (アンケート調査)	・市民の自転車の利用状況や自転車活用に関する意識、ニーズ、 施策に関する意向等を把握するため、市民、高校生を対象に アンケート調査を実施。
		市民アンケート調査（令和6年7月10日～令和6年7月31日） ・益田市内在住の18歳以上の市民から2,000人を 無作為抽出し郵送配布・回収 ・有効回答数:788件(回収率:39.4%)
	事業者・団体の意向把握 (ヒアリング調査)	高校生アンケート調査（令和6年7月内） ・市内4高校及び益田養護学校高等部の2年生を対象に 学校配布・回収 ・有効回答数:403件(回収率:83.6%)
		・第1次計画における施策の取組状況・進捗状況、市民の 自転車に対する意識や利用状況の変化等を把握するため、 関係事業者・団体等を対象にヒアリング調査を実施。
	庁内の方向性の共有 (庁内ヒアリング)	関係事業者・団体ヒアリング調査（令和6年7月～9月） ・事前の協力意向を確認し、市より依頼文章を送付後に ヒアリングシートを送付し、書面回答。詳細確認が必要な 場合は、対話形式によるヒアリング調査を実施。 ・調査対象:15事業者・団体
		・第1次計画の取組施策を所管する関係各課に対して、 ヒアリングシートを用いた書面による意向把握を実施。
令和6年 9月25日	第2回 益田市自転車 活用推進委員会	庁内ヒアリング（令和6年8月内）
令和6年 9月25日	第2回 益田市自転車 活用推進委員会	議事 1) 現行計画における取組状況の評価・検証 ①益田市の基礎データ整理の報告 ②アンケート調査報告 ③現行計画における取組状況の評価・検証 ④ヒアリング調査報告 議事 2) 今後の計画検討の方向性・考え方
令和6年 11月19日	第3回 益田市自転車 活用推進委員会	議事 1) 第2次益田市自転車活用推進計画(素案)
令和7年 1月16日	第4回 益田市自転車 活用推進委員会	議事 1) 第2次益田市自転車活用推進計画(案)
令和7年 1月～2月	概要版の作成	・第2次益田市自転車活用推進計画 概要版の作成
令和7年 2月14日～ 3月7日	パブリックコメント	・第2次益田市自転車活用推進計画(案)に対する市民意見公募 ・パブリックコメント結果の公表及び意見の反映
令和7年 3月	計画策定	第2次益田市自転車活用推進計画 策定

5-3 益田市自転車活用推進委員会名簿

益田市附属機関設置条例(平成 25 年益田市条例第 13 号)第 3 条の規定に基づき、益田市自転車活用推進計画の策定に関し必要な事項について審議するため、益田市自転車活用推進委員会を設置しました。

No	所 属	職 名	氏 名
1	公立大学法人島根県立大学	教授	松田 善臣
2	島根県自転車競技連盟	理事	永井 伸次
3	サイクルライフナビゲーター		絹代
4	益田市教育委員会	委員	原田 笑
5	島根県在宅保健師等の会「ぼたんの会」	益田地区 幹事	長野 知恵子
6	益田市身体障害者福祉協会	会長	野村 長典
7	有限会社森谷	代表取締役	森谷 典子
8	益田市連合自治会長会	会長	澤江 佑三
9	益田サイクリングサークル		村川 修
10	一般社団法人益田市観光協会	事務局長	高倉 大
11	益田警察署 交通課	課長	高木 俊輔
12	国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所	副所長	安部 正和
13	島根県益田県土整備事務所 維持管理部管理第一課	課長	安田 修二